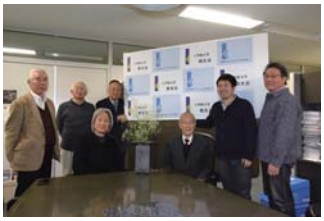
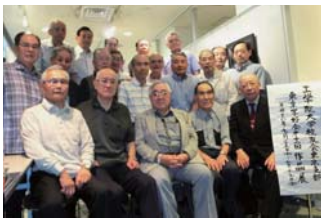
Kogakuin University Alumni Association 2017



工学院大学 校友会報 TOKYO URBAN TECH



vol. 138 2017

進化する八王子キャンパス
新2号館・ラーニングコモンズ
八王子がオープン!

学生に自由な学びと豊かな想像力をもたらす
～自学と共学をひとつのカタチに融合した校舎

2017年3月、八王子キャンパスの再開発プロジェクトの最後を締めくくる「新2号館」が竣工しました。

新2号館の建設は、株式会社INA新建築研究所（設計）と株式会社フジタ（設計・施工）が担当し、両社ともに本学の建築学科で学んだ同級生が中心となりプロジェクトに携わりました。さらに、建築学部の塩見一郎教授（建築デザイン学科）と2016年に退職された飯島直樹氏（建築デザイン学科元教授）がインテリアデザイナーとして参画し、校舎建設では類を見ない試みとして、学生の視点に立った斬新なアイディアが随所に取り入れられています。

新2号館

■名　　称：新図書館棟（仮称）
■階　　数：地上7階建て
■建築面積：1,297.09m²
■延べ面積：8,596.53m²
■構　　造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造（FRASH構法）
■最高高さ：37.13m

1F Fabrication Lab Floor

●実験・演習　3D映像、音楽実験評価室、収録スタジオ

映像・音響等のコンテンツ制作や実験ができ、情報学部の授業で活用します。

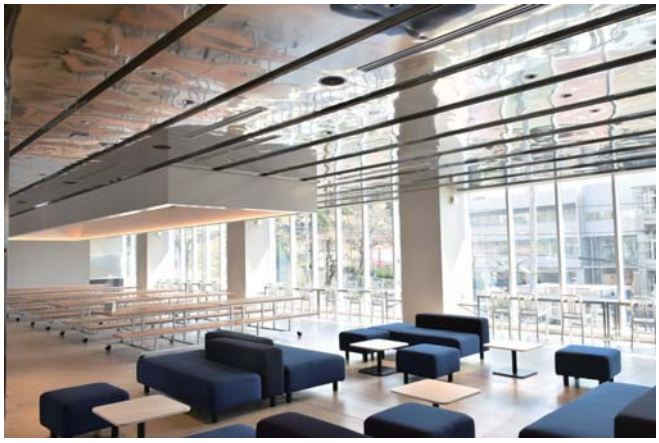
2F Information Floor

●情報収集-個人／グループ　情報収集ラウンジ

大学のメインゲートに面したラウンジではコミュニケーションボードで学内の様々な情報を得られます。

配置された家具はすべて可動式で学生が自由にレイアウトすることで、個人、グループ、講義形式などアクティブな学びを実現します。また、中庭の緑をゆらぐように映すアルミ製の天井など見どころも満載です。

さらに、2Fデッキフロアとバスロータリーが直結し、今まで停車場で並んでいた時間を大幅に短縮でき、バスが到着するまでの時間を有効活用できるようになります。



3F Study and Support Floor

●学習支援-個人／グループ　学習サポートコーナー

学習支援センターのサポートを受けたり、グループ学習ができます

4F Learning Floor

●静寂学習-個人　書架、学習スペース

未知に対する興味を引き出すためにキーワードを軸に関連書籍が並ぶストーリー性を重視した書架に、デジタルアーカイブが充実した図書館は、誰もが心地良さを実感できる新しいスタイルの図書館です。

CONTENTS

●ご挨拶

一般社団法人 工学院大学校友会　会長　田中 英生 02
学校法人工学院大学　理事長　髙田 貢 03
工学院大学　学長　佐藤 光史 03
工学院大学附属中学校・高等学校　校長　平方 邦行 03

●イベント報告

第4回定時社員総会（第60回総会）報告 04
新春の集い2017 05
平成28年度第4回全国支部長会報告 06
科学教室での校友会"ふれあいコーナー"の開設と校友による演示テーマの展開 07

●学園Topics

学園 08
附属中学校・高等学校 09
大学 10

●同窓会特集

特別座談会 12
機械系同窓会活動紹介 14
化学系同窓会活動紹介 16
電気系同窓会活動紹介 18
建築系同窓会活動紹介 20
附属高校同窓会活動紹介 22
専門学校同窓会活動紹介 24

●OB・OG会特集

空手道部OB会（淀橋会） 26
弓道部OB会（工弓会） 27
グリークラブOB会 27
三和シヤッター工学院OB・OG会 28
鉄道研究部OB会 28
ボクシング部OB会 29
ヨット部OB会 29

●全国の支部から

東京支部／愛知県支部／大阪支部／大分県支部 30

●校友会とは 34

●各部会の報告

総務部／財務部／広報部／同窓会組織部／支部組織部／学園連携部 35

●事務局の報告

2017年度校友会主な行事予定／2016年度表彰学生・生徒／学術講演会 38
受章報告／校友会談話室のご利用について／ファカルティクラブのご利用について／訃報 39
教育・研究環境の整備事業募金 40
第18回工学院大学校友会　全国大会・北海道大会 41
維持協力会費納入者ご芳名 42

2017年の新年度を迎えて

一般社団法人 工学院大学校友会
会長　田中 英生
Hideo Tanaka

いよいよ平成29年度が始まりました。校友会を取り巻く環境で昨年の一番大きな動きは学園の憲法であります「寄附行為」に大きな改正があった事です。

文部科学省からの通達や指導、私立学校法改正、学校教育法改正などに沿った改正は勿論でありますが、今後も続きます少子化を始め、社会情勢の変化に対応した運営ノウハウが盛り込まれました。

具体的には、理事会や評議員会の構成規模のスリム化などをメインに、理事会は意思決定機関、評議員会は重要事項の諮問機関と言う役割の明確化などが反映され、ガバナンス強化が図られました。

我々、校友会もそれに呼応して定款や諸規則を改訂し、今後一層学園との連携が深まり、校友会活動の意味が濃くなる事を目指します。

2年前に私は「校友会の更なる活性化に向けて」と言う目標を掲げ、より多くの皆さんに校友会活動に参加して頂ければ、定款の二つの目的が同時の叶うのですと機会ある毎にお話しをさせて頂きました。これに沿って昨年1年間進めて来ました業務について総括し、今年度の活動に繋げたいと思います。

各6部の業務分掌に沿った業務はいずれも粛々と行われておりますので、特に更なる活性化へ向けた活動について抜粋したいと思います。

まず総務部ですが、学園の新しい寄附行為と校友会の定款がきちんと連動するように、現在進行中の新しい代議員選挙制度を始めとして、学園の評議員会や理事会への対応も反映されました。

次に財務部でありますが、ここ数年間の慢性的なプール金の取り崩しの回復と同時に安定的かつ潤沢な財源確保による財政の健全化を目指して、校友会イベントの黒字化、校友会報やHPの更なる充実による広告収入のアップ、新しい収益事業の可能性など種々検討しております。

広報部につきましては、卒業後になかなか校友会に足を向ける時間のない社会で活躍しておられる校友の皆さんが、もっと校友会を通して学園とも交流が図れるような機会の創出も検討しております。

同窓会組織部につきましては、「新春の集い」をはじめとした各種イベントの更なる大型化、内容の充実を進めております。また最近の技術革新は単に機械とか電気とかの範囲を超えた人工知能などを含む幅広い技術分野の融合技術であり、目覚ましい進歩をしています。校友会でも各同窓会どうしの壁を低くして、もっと何か新しい形の横の一体感を出せないものかと言う議論も始めています。

支部組織部については各エリアでの支部合同によるイベント開催で動員数のアップが図られるなど、支部の更なる活性化が結果を出しつつあります。

極めつけは、今年の9月にあります北海道支部主催の全国大会・北海道大会の開催であります。これは、支部組織部全面支援によります3年に一度の校友会最大のイベントでありますが、まだどうしようかとお考えの皆さん、9月の北海道は最高です。奥様と、ご家族と、あるいは仲間の校友さんと是非参加してみては如何でしょうか。

最後に学園連携部ですが、学園連携部の役割は文字通り学園と連携して学生、生徒、教職員、ご父母の皆さんの活動を支援、交流する事が目的ですが、貴重な社会経験をお持ちの校友の皆さんを人材登録して学園へ派遣出来ないかと言ったアイデアも進行中です。

こうした事の積み上げで、校友会と学園の一体感が増す事を期待しています。

校友会活動と言うのは、校友の皆さまに長きに渡って安定的に定款の目的に沿った活動を提供して行く事であります。それには言う所の人・物・金の中で特に人の部分が要であります。この校友会報を読んでおられる皆さまからも校友会活動への積極的な参加を期待するものであります。

『不確実性の時代』に活躍できる若者を育成する

工学院大学附属中学校・高等学校　校長
平方 邦行
Kuniyuki Hirakata

第45代の米国大統領にドナルド・トランプ氏が就任以来、米国を中心にさまざまな波紋が広がっています。勿論、賛否両論入り乱れ先行きの不透明感は増すばかりです。

既に過去の経験を当て嵌めるだけでは解決できない混沌とした世界が広がっていますが、同時にひたひたと忍び寄るAI社会が齎す不確実性の時代に、教育はどう対処すればよいのでしょうか。少なくとも知識の量で理論を構築しても新しいものは中々生まれません。とすれば「知識論理型」の思考力を凌ぐ「論理創造型」の思考力の養成に注力して、先進性に富む学校づくりを推進していくことを大切にしなければと考えます。

末筆になりましたが、校友会の敬愛なる諸氏のご健勝を、心よりお祈りいたします。

二つのキャンパスから見る未来

工学院大学　学長
佐藤 光史
Mitsunobu Sato

卒業生の皆様には、健やかにご活躍のこととお慶び申し上げます。

今年度、建築学部と情報学部が主体になって「巨大都市・複合災害に対する建築・情報学融合によるエリア防災活動支援技術の開発と社会実装」という私大研究ブランディング事業が国に採択されました。新宿を中心とする巨大都市の安心・安全を担う本学のブランドの一つです。また、新2号館が間もなく竣工する八王子キャンパスでは、ソーラーカーチームの多数の学生たちが、オーストラリアでの秋のレースに向けて新車両の製作を進めています。建学の精神「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工の精神』」が脈々と息づき、グローバルに挑戦する実践力のある人材が育っています。

“コンパス2017”を完遂させます

学校法人工学院大学　理事長
髙田 貢
Mitsugu Takada

春の訪れとともに新年度が始まり、学校法人工学院大学も4月1日に大学・大学院の入学式が開催され1,701人の新入生が入学し、引き続き4月4日に附属中学・高等学校においても入学式を開催、380人の生徒が入学、新学期が始まりました。

いま、我が国の教育界は大きな変革期を迎え、近年の少子化、産業界の変革等による社会経済情勢の変化に伴い、私立学校は厳しい経営環境にさらされています。そのような中で、本学園は本年創立130周年を迎えますが、創立以来の伝統と先達から引き継いだ有形・無形の遺産の上に、長期計画”VISION 150”を開花させ、学園が生き残り持続的発展するためには中期計画“コンパス2017”で進めている学園改革を完遂させなければなりません。学園の“ステークホルダー”である校友の皆様のご支援とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

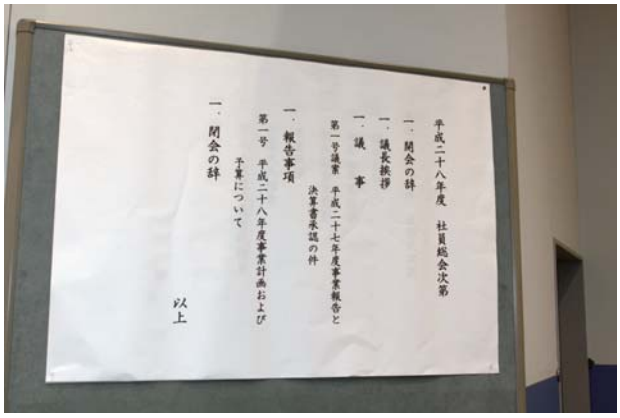
第4回定時社員総会（第60回総会）報告

総務部長　関谷 重彦

一般社団法人に移行して4回目の社員総会が2016年5月29日（日）に新宿校舎3階のアーバンテックホールで開催されました。

10時30分に開会し、田中校友会会長の挨拶の後、平成27年度事業報告と決算書が承認されました。平成28年度事業計画と予算が報告され、総会は終了しました。引続き、代議員選挙の投票状況の説明と第18回全国大会・北海道大会のPRがあり、午前の部が終了しました。その後、同窓会毎に分かれて同窓会報告会兼意見交換会が開催されました。

午後の部は14時10分に開会し、校友会会員表彰の後、髙田理事長の来賓挨拶、佐藤学長、平方附属中学校・高等学校校長から学園近況報告をして頂きました。優秀学生・生徒表彰の後、中層棟7階の食堂ホールで懇親会が賑やかに催されました。



●総会次第

●採決

●司会陣

●乾杯!

第5回定時社員総会のご案内

第5回定時社員総会は、2017年5月28日（日）に行われます。

10:00～　受付開始
（3階アーバンテックホール）

10:30～　第5回定時社員総会
（3階アーバンテックホール）

12:25～　各同窓会報告会
（同窓会ごとに別会場）

14:15～　優秀学生・生徒表彰式
（3階アーバンテックホール）

15:50～　懇親会
（中層棟7階食堂ホール）

◎定時社員総会の議題案は以下の通りです。

1. 2016年度事業報告と決算の承認
2. 2017年度事業計画と予算の報告
3. 新理事・監事の選任の件

◎全国支部長会が第5回定時社員総会前日の5月27日（土）に予定されています。

◎社員総会・懇親会には全国から代議員や各支部長をはじめとする、多くの会員が集まります。親睦を深めるとともに、皆さんのネットワークを広げることにお役立てください。

新春の集い2017

同窓会組織部長　小澤 和重

「若年・壮年・シニアOB/OG世代を超えて集おう!」をテーマに2017年1月8日午後から雨予報の中、新宿キャンパスに約420名が集まり、オープニング前の集合写真撮影・北海道全国大会PRの後、同窓会組織部小澤部長による新年らしい明るい開会宣言[1]で開演しました。

続いてお馴染みのグリークラブと樹輪の会による校歌・学園歌斉唱、学園関係者の紹介[3]、校友会会長挨拶、理事長祝辞[2]、鏡開き[4]となり、お待ちかねの乾杯が佐藤学長のご発声で行われ、歓談に入りました。

歓談中、理事長、学長、校友会長による会場巡回名刺交換が行われ、参加者との交流を深めました。今年は参加者同士の懇親の時間を長くし、イベントを思い切って少なくしました。

メインイベントは、高瀬道場の総勢20名の女子の皆さんによる迫力ある素晴らしい殺陣演武[5]が行われました。殺陣演武の余興でナミビアの3名の留学生が舞台に上がり侍の衣装を着て殺陣演武を行い、拍手活采を浴び、会場が和やかなムードに包まれました[6]。

本学が国際化を目指していることに合せて、昨年から行っている留学生参加の企画で今年は、化学応用学専攻博士課程1年のフィリプス・ヒシモネ君、化学応用学専攻博士課程進学予定の研究生アリーナ・ウーシク嬢、電気・電子工学専攻修士課程1年パウルス・カプンジャ君の3名の留学生に参加してもらいました。3人とも貴重な体験できたと大喜びでした。[7]

イベントのトリは、恒例のお楽しみ抽選会です。景品名が書かれた券が入っている約450の風船[8]が太田副部長のカウントでアトリウムの上空に張ったネットから会場に舞いおりました。昨年度同様多くの景品が校友会および企業、個人から寄せられ、参加者全員に景品が行き渡り喜ばれました。

中締めの万歳三唱[9]を太田副部長の音頭で盛大に行い、終演となりましたが、終演後も多くの校友が残り、名残惜しそうにいつまでも歓談が続いていました。このイベントも年々初参加の方も徐々に増えています。現役時代に仕事で世話になった先輩から誘われて来たという初参加の方もいました。30年ぶりの再会だったそうです。[10]このように再会の場としても使って頂けると主催者としても嬉しい限りです。

最後にこの集いの趣旨にご賛同頂き、参加して頂いた学園関係者の皆様、景品を提供して頂いた校友各企業、各同窓会、個人の皆様に心より御礼申し上げます。

⑦

①

④

⑧

②

⑤

⑨

③

⑥

⑩

平成28年度第4回全国支部長会報告

支部組織部　横田 仁

1. 開催日時：平成28年5月28日(土)13:00〜16:55
2. 場　　所：新宿校舎28階会議室(第1、第2)
3. 参 加 者：全国44支部：出席40名、委任状1名、欠席2名、未回答1名、理事、監事、支部組織部：23名　出席者計63名
4. 議　　長：上野　耕平(支部組織部部長)
   副 議 長：渡辺　征三(支部組織部副部長)
   書　　記：横田　　仁(支部組織部員)
5. テ ー マ：テーマ①：次期全国大会開催支部募集について　テーマ②:支部の活性化について
   テーマ③：熊本地震の支援について

例年、全国支部長会は社員総会の翌日の月曜日に開催してきたが今回は前日の土曜日の午後開催した。田中校友会長から「熊本地震で益城町在住の口元熊本県支部長から特に大きな被害が無かった確認が出来、安堵したこと、全国の支部でいろいろなイベントや懇親会、合同交流会が開催され、校友会の活性化活動に感謝し、今日と明日の総会で忌憚ないご意見と密度の高い親睦を計り活性化につなげたい。」との挨拶が有り、司会者白井氏(支部組織部)から新任支部長(4人)山梨県支部長浅川哲氏、香川県支部長小川好清氏、石川県支部長浅川郁夫氏、熊本県支部長口元恵策氏の紹介の後、欠席の浅川郁夫氏を除く各新支部長よりご挨拶を頂きました。

次に報告伝達事項で、各支部の移行状況について(上野支部組織部長)平成27年度各部(本部)の活動報告「代議員制度の変更と代議員選挙投票状況(関谷総務部長)維持協力会費増加の現状(相澤財務部長)盛大な新春の集いについて(小澤同窓会組織部長)ホームカミングデイの成功と科学教室に校友会ブース設置(矢ケ崎学園連携部長)」その後北海道支部長の稲田氏より第18回全国大会北海道大会の紹介が有った。

テーマ1「全国大会次期開催支部募集について」中部、関西、四国、九州地区で候補地を挙げたいとの意見が有りましたが、立候補支部が無く、大分県支部のみが持ち帰って検討することになりました。

テーマ2「支部活性化について」校友会永遠のテーマのため自由討議としました。

テーマ3「熊本地震の支援について」口元熊本県支部長、渡辺大分県支部長、高巣福岡県支部長から地震後の現状報告が有り、多くの意見が出たが、結論が出ず、後日、理事会に諮ることにしました。最後に参加者全員の記念写真撮影で全国支部長会を終わりました。

参加者集合写真

科学教室での校友会“ふれあいコーナー”の開設と校友による演示テーマの展開

学園連携部長　矢ケ崎 隆義

第33回「わくわくサイエンス祭　科学教室」が、8月27日(土)、28日(日)に、わが母校の八王子キャンパス(大学・中高等学校両キャンパス)全域を使って開催されました。ご存知のように、科学教室は工学院大学学園の理科学教育面における社会貢献事業の一つです。東京の西部地区、多摩地区では“夏の風物詩”とまで言われるほどになり、「科学教室と言えば工学院大学!」がすっかり定着しました。卒業生として、喜ばしい限りです。

今年の演示テーマ数は81(昨年度と同数)、二日間で約7,400名の子供さんが来場(昨年度は9,551名)、昨年より来場者数が減った分、取り組むことが出来るテーマ数が増えたためか参加者の満足度は高くなり、おおいに理科学を楽しみ歓声を上げている子供たちの姿が印象的でした。

今年も、かつて学生として科学教室の指導を担って支援参加した経験を有する多数の校友が来場者として訪れ、理・科学実験を楽しんでいました。また、その校友が父親や母親、或いは祖父母となって子や孫を連れて演示テーマを楽しむ姿がみられました。当日のヒアリング調査では、実に成人来場者の10人の内の2人が校友であり、その内の半数が子どもを連れての来場でした。

校友会ふれあいブースでの交流が始まりました!!

昨年に引き続き、校友会では科学教室の開催中に校友会の活動に関わる情宣活動と校友会員同士の交流の場として「校友会ふれあいブース」を設置しました。ブースには、校友会事務局員及び学園連携部部員が常駐、校友会員同士がゆっくりと語らいまた待ち合わせの場所としてもらうゾーンと、校友会の活動を紹介するパネルの展示・説明や資料の展示・配布(各同窓会の資料を含む)するゾーンを置きました。今年は、予め、ブースの設置を科学教室の情宣広報に載せることが出来たため、多くの校友がブースに訪れ、校友会員の待ち合わせ場所ともなり、会員相互の交流の場となりました。

支部及び校友による演示テーマが更に充実しました!!

今年は、校友により科学教室の常設の演示テーマとして4テーマが展開されました。①「炭焼き」:西東京支部主催、②「竹とんぼ」:愛知支部主催、③「ルミノール反応」:化学系同窓会主催、④「オリジナルスーパーボール」:大学・校友会共催、です。因みに、各テーマでは、多くの校友会メンバーや在校生たちが支援者として協力する姿がありました。この4テーマで、なんと974名の子供たちが大いに楽しみました。いずれも、参加者アンケートにて好評であり、人気上位を獲得しました。

在学生との交流が実現!!

科学教室の終了後、校友会の演示テーマの支援参加学生86名と校友22名との懇親会が開かれました。会の途中から、他の演示テーマである「燃料電池車」と「アロマキャンドル」の学生諸君23名と教員2名が合流、次年度の校友会との協力関係が約束されました。これらを通して、支援参加学生諸君の校友会への理解が深まり、併せ校友会活動への誘導も行われました。

学園

●八王子市との包括連携●
～「魅力あふれるまちづくり」に大きな進歩～

八王子市と工学院大学は、単独市町村ならびに大学単体として共に初となる包括連携協定締結後一年を迎えました。2016年度の主な成果は、下記の通りです。

1)連携を推進するために定期的な協議の場(包括連携推進協議会)の設置
2)「災害時ボランティアに関わる相互協力に関する協定」締結(平成28年8月1日)
3)児童・生徒向け科学教室の共催実施(平成28年8月27日・28日)

●起震車体験(八王子市と東京消防庁合同で出展)

●市制100周年をPRするブース

4)NHKラジオ第一「キャンパス寄席」公開収録への協力(平成28年10月15日)

●ダンボールシェルターの展示

その他、八王子市中町を対象に「歴史を感じられる景観の創造・継承」をテーマに中町花街散策マップの作成に取り組むなど、工学院大学では学生たちを中心に包括連携協定外の活動にも積極的に取り組んでいる。

●ホームカミングデー2016 八王子にて開催●

11月5日(土)、八王子キャンパスにて、第15回ホームカミングデーを開催し、約150名の卒業生が旧交を温めました。

歓迎イベント「キャンパス見学」では、2017年3月竣工予定の新2号館の建物内に入るルートが用意され、卒業生の方々から建築工法などの技術的な質問もありました。また、校友会出店の「地酒BAR」は、全国の支部から推薦された各地の銘酒が楽しめるとあり、今年も盛況でした。懐かしい恩師や学友との再会で盛り上がり、終始和やかな雰囲気に包まれ賑わいました。

●八王子キャンパスマスタープラン、完成!●

2016年3月に竣工した八王子キャンパスの4号館は、愛称が「あどらぼ」と決まりました。あどらぼ前に整備された芝生広場には桜やイチョウが植えられ、季節を感じられる場所になります。北門も整備され、キャンパス入り口の新しい「顔」となっています。八王子キャンパスの東側面を通る「かすみ学園通り」に面する校地はセットバックし、歩道を拡幅しました。2017年3月30日(木)の新2号館ご披露会もって、八王子キャンパスのマスタープランは完成となります。

●工事前

●工事後

●「エコプロ2016」に8年連続出展●

大学と高校の委員会などが、参加体験型環境イベント「エコプロ2016～環境とエネルギーの未来展」(2016年12月8日(木)～10日(土))に出展し、学生・生徒が取り組む環境活動を紹介しました。

大学の環境ISO学生委員会は、「紙抄き」を体験できるコーナーを新設。森のサイクルと紙のサイクルについて学生が説明し、来場者のハガキ作成体験をサポートしました。紙抄きの技術指導と材料は、三菱製紙株式会社と三菱製紙販売株式会社が協力。同社との産学連携のきっかけが、「エコプロダクツ2015」出展であることから、この1年間の活動をパネルで説明しました。

大学の環境マネジメント工学研究室(稲葉敦教授・先進工学部　環境化学科)は、昨年に続き、LCAを子どもたちにわかりやすく伝える「環境クイズ」を実施したほか、大学からは、地域清掃やゴミの分別活動、養蜂から環境を考える「みつばちプロジェクト」の活動を展示しました。

高校は、2015年12月に行ったインドネシアでのごみ問題解決プロジェクトをパネル展示しました。

●新宿区との包括連携協定●

大学の教育・研究の充実を図り、地域社会の発展に寄与することを目的に、新宿区と包括連携に関する協定を結び2016年5月24日、新宿区役所にて締結式を行いました。

工学院大学は、新宿駅周辺事業者からなる「新宿駅周辺防災対策協議会」に2002年の発足当初から参加し、区と共に地域の防災に強いまちづくりの推進に努めています。2012年12月には、防災・減災対策に関し区との連携をさらに強化し、災害から逃げないですむまちづくりを目指し「防災・減災対策の相互連携に関する基本協定」および「帰宅困難者一時滞在施設の提供に関する協定」を締結しています。

●KU-SITEできました●

新宿キャンパスに、学園の最新トレンドの発信拠点として『KU-SITE』が7月21日にオープン。同日、世界が注目するアーティスト・野老　朝雄氏らを招き、記念対談が催されました。展示エリアには、八王子キャンパスに建設された総合教育棟のファサードに採用された有孔折板を展示しています。サイネージと展示で、キャンパスの様々な風景や、研究活動、社会貢献活動などの旬な話題で学園の「今」を「魅せる」場となります。

附属中学校・高等学校

●馳文科大臣、中学教頭授業を視察●

髙橋一也教諭（中学教頭・英語科教諭）は、2016年2月に教育界のノーベル賞と称される『グローバル・ティーチャー賞』トップ10に日本人として初選出されました。これを受けて、馳 浩文部科学大臣（当時）が、6月20日（月）に髙橋教頭の授業を視察されました。この日の授業テーマは"芸術は人生を豊かにするか?"。PBLのアートプロジェクトで行った事柄（絵を描く・ダンス・歌・3Dプリンター使用等）を振り返り、生徒同士で議論しました。美術・英語の教諭も加わり、ワールドカフェ方式のディスカッションを行いました。

●海外研修プログラム、2016年度はハワイ、ベトナム、ハーバードでも開催●

中高では、生徒のグローバル感覚を磨き、国際的な社会問題を解決しようとする意欲を育てることを目的として、毎年多彩な海外研修プログラムを用意しています（参加は任意）。今年は、高校生を対象としてベトナム、ハワイでのプログラムも開催されました。アントレプレナー研修は、ハーバードとMITを会場に行われました。

●Project Tourを実施:アプリを使った現地学習●

中学2年生が広島、宮城で行われた「Project Tour」に参加しました（11月7日（月）～10日（木））。これは、従来「修学旅行」の名称で行なっていた行事です。生徒達は「ヒロシマ・京都」と「東北」から一つを選び、行き先ごとに事前学習と各地で、アーカイブアプリを活用して学習しました。ヒロシマでの活動は、新聞にも取り上げられました。

●1/31-2/8東ティモールで外務省推進「対日理解促進交流プログラム」に参加●

日本政府（外務省）が推進する対日理解促進交流プログラム（JENESYS2016）に採択されたことを受け、20名の高校生が2017年1月末から10日間、東ティモール民主共和国に派遣されました。JENESYS2016は、一般財団法人日本国際協力センターが実施するアジア大洋州の各国・地域を対象とした事業です。附属高校では、推進する21世紀型教育の一環として応募しました。滞在中は2つの高校を訪問し、日本の魅力を紹介するプレゼンやディスカッションを英語で行いました。

●ユース非核大使として国連本部などで議論（日米平和会議）●

高校生2名が、9月16日(金)から19日(月)、アメリカで行われた『日米・高校生平和会議』に参加し、日米の高校生や一般市民、米国在住の被爆者らとともに、原爆と太平洋戦争の歴史、平和についての議論を行いました。ニューヨークの国連本部やハーバード大学を会場に開催され、その取り組みは外務省「ユース非核特使」の委嘱を受けました。

大学

●多摩信用金庫と締結●

工学院大学は、2016年4月12日に多摩信用金庫（理事長:八木敏郎、所在地:東京都立川市）と産学連携推進に関する協力協定を締結しました。学内における研究シーズ発表会の開催や多摩地域における中小企業のニーズのマッチングなど、地域の発展を目的に相互協力し、幅広い分野の課題解決を目指します。

●2年連続、日本建築学会賞を2名の教員が受賞●

建築学部建築デザイン学科の金箱　温春（かねばこ・よしはる）特別専任教授が、業績『耐震改修における構造デザインの実践と啓発活動』で、2016年日本建築学会賞（業績）を受賞しました。

建築学部建築学科の柳宇（やなぎ・う）教授が、論文『建築環境における微生物汚染機構の解明とその対策に関する一連の研究』で、2016年日本建築学会賞（論文）を受賞しました。本学教員の受賞は、昨年より2年連続となりました。

●東京医科大学と共同事業開始●

東京医科大学（学長　鈴木衞／東京都新宿区）と、治療や診断における患者さんの身体的な負担をできるだけ小さくする治療方法や診断装置の新規開発に特化した共同研究事業を開始しました。

●私立大学研究ブランディング事業に採択●

私立大学研究ブランディング事業とは、全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学等に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に文科省が支援する取り組みで、全国の私立大学から198校申請に対し40校が採択（採択率20%）されました。

採択された事業では、建築学分野で得られている震災対策の成果と、情報学分野の最先端のICT技術（AR/VR、モニタリング/画像処理、非常通信/高速情報処理など）を融合させ、エリア防災活動支援技術に関する研究開発事業と、地元行政（新宿区）と住民・事業者と連携した成果の普及キャンペーンなどの実施による社会実装事業を行います。大学の研究・教育・社会貢献活動として実施し、技術開発と社会実装化のノウハウなど、得られた全て成果を公開します。これにより、世界のどの巨大都市にも適用でき、本学のブランディング価値を大いに高めることが期待されています。

●K×Kプロジェクト●

工学院大学が八王子市にキャンパスを構えて50年余り。キャンパス内には複数の老朽化した倉庫などの建物が点在しています。これらを学生たちの手で整備するプロジェクト「K×K（ケイケイ）プロジェクト」が始まりました。

株式会社東京チェンソーズ（代表取締役:青木亮輔、所在地:東京都西多摩郡）および株式会社結設計室（代表取締役:関谷真一、所在地:東京都八王子市）と間伐材購入協定を締結。多摩産の木材を活用し、建築学部の学生が中心となり、学生自らキャンパス内の整備を手がけます。

●女子志願者増加●

2016年度の大学1年生における女子の在籍率は、20.5%となりました（全学部平均）。建築デザイン学科の48.9%を筆頭に、各学部学科で、女子の割合が増えています。2015年度の女子就職率においては、96.1%（全学部平均）で、首都圏理経8大学（千葉工業、北里、工学院、東京工科、東京電機、麻布、神奈川工科）でトップとなりました（東洋経済オンラインより）。

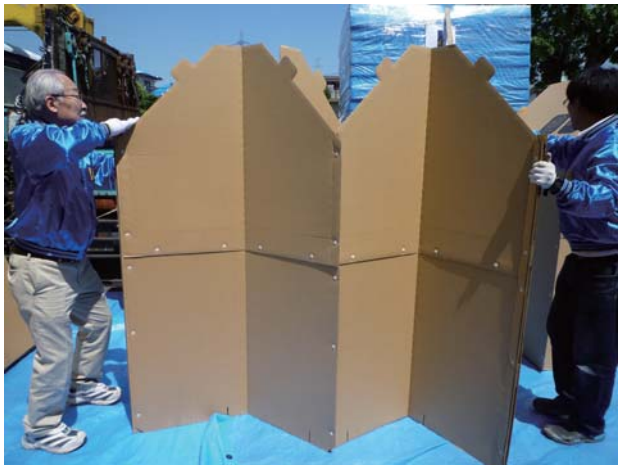
●イノベーション・ジャパン2016:出展数10件は全国私立大学第一位●

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が主催する国内最大規模の産学マッチングイベント『イノベーション・ジャパン2016～大学見本市&ビジネスマッチング～』において、10テーマを出展しました。これは、全国私立大学の中では第1位の出展件数で、産学連携を大学の「第三の使命」として位置づけ、研究活性化を推進し社会貢献を目指してきた成果です。

●熊本地震への対応：ダンボールシェルター●

鈴木敏彦教授（建築学部　建築学科）が東日本大震災の被災地支援の一環で開発した「ダンボールシェルター」を、同大卒業生らで組織する校友会および建築学部同窓会が中心となり、熊本地震の避難所に届けました。「ダンボールシェルター3」は、体育館等に避難している被災者のための寝室・更衣室・避難トイレ・診療室などの用途に使用でき、今回は合計140個提供しました。

第1便は、4月29日、益城町保健福祉センターに届けられました。このシェルターの設置は、工学院大学建築学部同窓会の寄付金を元に活動が進められ、地震の影響で道路や鉄道などの物流網が寸断される中、一般社団法人工学院大学校友会熊本県支部および戸田建設株式会社九州支店の搬入支援を得て実現しました。



●学位授与式●

2017年3月18日、学位授与式が京王プラザホテルにて挙行されました。学科、修士課程、博士課程、教職特別課程を合わせて1,554名が、巣立ちました。卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。

挙行日が土曜日のためか、学位授与式には例年以上に大勢の方が参加しました。教室での学位個別授与では、ご家族が見守る中、和やかに卒業を祝う様子があちこちで見られました。

大学を卒業したから、工学院ともサヨウナラ'ではありません。これからは、卒業生同士という、年代を超えた大きな関わりが皆さんを待っています。先輩方との出会いは、新たな道への活躍を支えてくれることでしょう。

そして、お世話になった先生方や後輩への応援も、是非、お願いします。学園では、twitter、Facebookで、最新情報を発信しています。

新たな交流を生み出す工学院同窓会の未来像

2017年2月4日（土）、工学院大学新宿キャンパス B-ICHI（ビーイチ）で開催された特別座談会を誌上報告します。

司会　広報部長　澤崎 宏
機械系同窓会　会長　田中 英生
化学系同窓会　会長　志村　豊
電気系同窓会　会長　小澤 和重
建築系同窓会　会長　鈴木 敏彦
附属高校同窓会　会長　太田 正利
専門学校同窓会　会長　渡辺 征三

澤崎：今回は、各同窓会会長の皆様をお招きして、同会の未来について語り合っていただきます。まずは、各同窓会の特徴や力を入れていることについてお話しください。

田中：機械系同窓会は、学園発展への貢献などを運営規則とし、同窓会員の親睦提携をメインに活動しています。ここ数年、教員の先生方との交流をテーマに掲げてきた中で、新たにスタートさせた交流の場が「機機械会」です。先生方に20-30分程度、最新の研究内容などについてご講演いただき、その後、参加者同士、ビールなどを飲みながら自由に議論を発展させています。これは、OBや先生方による講演を聞いて懇親会を行うスタイルとは少し異なり、講演自体よりもその後の雑談をフランクに楽しむことが特徴です。

澤崎：「機機械会」というのは面白いタイトルですね。

田中：これまで2回開催しましたが大変好評です。先生方も協力的なので、面白い会に発展することを期待しています。

澤崎：ありがとうございます。化学系同窓会はいかがですか。

志村：化学系同窓会では、2月と8月を除く毎月第2土曜日の夕方、新宿キャンパスで「化学の夕べ」という催しを行っています。これは、化学系の卒業生、教員の先生方による講演、国際学会での発表経験のある大学院生の体験談、在校生による研究発表といった内容です。各回とも、前半の約1時間は講演や研究発表、後半の約1時間は立食でビールなど飲みながらフランクな懇親会を行っています。

　開催する第一の目的は、在校生に同窓会を知っていただくこと。諸先生方のご協力が不可欠なため、同窓会の役員との親睦も積極的に行っています。過去数年、継続的に開催してきましたが、今年もますます発展させていきたいと考えています。

澤崎：機械系同様、教員の先生方や在校生との交流に力を入れておられるのですね。電気系同窓会はいかがでしょうか。

小澤：電気系同窓会は、電気系の学科と情報系の学科の同窓会員で構成されています。総数は今年1月時点で約13,800名。毎年300名程度、新たに加わっています。さらに今後、応用物理学科やシステム数理学科などの同窓会員もこれに加わります。

　力を入れているのは、準会員である在校生と同窓会をつなぐ2つの支援活動です。1つは、資格取得報奨制度。情報、電気系の学科や先進工学部、応用物理学科の在校生が資格試験に合格した際、受験料を報奨金として授与しています。もう1つは、インターンシップの発表会の表彰制度です。大学が積極的にインターンシップに取り組む中、毎年11月に行われる在校生の発表会に卒業生が同席し、発表の出来栄えについて評価。優秀な発表をした在校生を表彰しています。

澤崎：資格取得報奨制度は良い取り組みですね。

小澤：他の同窓会でも取り組んでいただけますと学園全体で盛り上がっていきます。インターンシップ表彰を含め、ぜひご検討いただきたいです。

澤崎：資格取得報奨制度により、資格取得者は増えましたか。

小澤：増えています。うれしい悲鳴で、予算面で大変な思いをしています（笑）。

澤崎：ありがとうございます。建築系同窓会はいかがですか。

鈴木：建築系同窓会誌『NICHE』は1968年に創刊し、2017年には記念すべき第40号を発行し、50年目を迎えました。その間、幾度かの危機を乗り越えた先に本号があります。改めて先輩方の功績を讃えると共に、未来に叡智を受け継いでいきます。

　2014年からNICHE出版会を創設し、同窓会誌や書籍を発行し、媒体を通じてさまざまな活動を発信しています。

　活動の中心は主に2つ。1つは工学院の前身、工手学校出身者の活躍の掘り起こし。日本統治時代の台湾の建築との関わりや、日本の国づくりへの貢献といった工手学校出身者の活躍を発掘し『NICHE』に掲載しています。

　もう1つは、近代建築の保存です。八王子の図書館解体をきっかけに、もっと工学院が歴史を大事にしなければ、という思いを強くしました。昨年、白樺湖学寮が廃止となり、解体直前だったのを引き継ぎ、当同窓会と校友会の共同で保存・活用していきます。単なる反対運動ではなく、一歩踏み込んで建築の保存に取り組んでいます。

澤崎：海外の取材も多いようですが、苦労はないですか?

鈴木：夏休みを返上して、海外取材を行っています。

澤崎：ぜひ頑張ってください。高校同窓会はいかがですか。

太田：高校同窓会の特徴は、1クラス40名のクラスがあることです。卒業式の前に同窓会のクラス委員を決め、同窓会の連絡をお願いしています。現在、同窓会への関心を高めるため2つの取り組みを検討しています。まずは、卒業式での同窓会会報の配布。次に、同窓会の開催時期の調整。卒業して1～2ヶ月の時期が、仲間と会いたくなるタイミングです。そこで、5月末の土曜日に大学のキャンパスでの同窓会を予定しています。卒業式での会報配布で集客を高めていきたいです。

澤崎：専門学校同窓会はいかがですか。

渡辺：専門学校同窓会は、入学中断しており、卒業後40年程度の高齢の方が中心です。現在、同窓会報は廃止し、専門学校同窓会のホームページの拡充に取り組んでいます。主な活動は、金属関係のフィールドワーク、横須賀の戦艦見学、クルージングなど。毎年12月の恒例行事として、刀鍛冶の佐藤氏の見学会を開催しています。佐藤氏は、日本の十指に入ると言われる高名な刀鍛冶。これまで当同窓会主体で行ってきましたが、他の同窓会にも呼びかけて交流を図っています。

澤崎：専門学校同窓会は結束が固いといわれています。団結力の秘訣は何でしょうか。

渡辺：諸先生方と同窓会員の人のつながりが大きいですね。卒業後、何十年経っても「元気にやっていますか?」と同窓会員が気にかけてくださることで活動がつながっています。

澤崎：ありがとうございます。さて、活動で一番大変なのは財源です。各同窓会ではどのように対応されていますか。

田中：機械系同窓会は、収入に見合った支出を心掛ける一方、イベントの黒字化や、維持協力会費の増加など、財源を増やすことも考えています。良い形で収入が増えていけば在校生を支援する活動も広がるため、積極的に取り組んでいます。

志村：化学系同窓会で財源アップに貢献しているのが、同窓会報への企業広告の広告費です。今後は大企業だけでなく中小企業の広告にも力を入れていきたい。広

告を通じて魅力的な中小企業を紹介し就職先の選択肢を増やすことが、在校生、企業双方にとってプラスになると考えています。

澤崎：良いアイデアですね。

小澤：電気系同窓会は新卒者の同窓会費、寄付、そして化学系同様、同窓会報の企業広告費という3つの柱で構成されています。財政的に潤沢ではなく、資格取得報奨制度、インターンシップ表彰制度に注力しているのが現状です。

鈴木：建築系同窓会は、校友会費とは別に、建築系同窓会費及び寄付などの支援のもと、出版活動を続けています。その他に、書籍『NICHE』など出版物の書店売上や『NICHE』の広告収入等があります。また、白樺湖学寮の保存に関して600万円ほど寄付を集めることができたので、それを原資として改装や維持管理に活かしていきます。

太田：高校同窓会は、財政が厳しい中、卒業式での各クラブ部長への図書カード及び表彰状の贈呈、試合遠征などの援助などを行っています。卒業式での記念品費用を全卒業生から頂いていますが、その一部は在校生の支援にも使われています。

澤崎：他の財源はいかがですか。

太田：同窓会の維持協力金として年間約30万円程度集めています。

渡辺：専門学校同窓会は、卒業生が増えないためこれまでの蓄財でやりくりしています。また、機会があるごとに協力会費を集めています。

澤崎：本日のメインテーマ、各同窓会の一体化について語っていただきます。学科の壁、地域の壁、OB、OGの壁を取り払うにはどうしたら良いのでしょうか。白樺湖学寮の保存や合同の交流サロンなど壁を取り払うアクションも生まれつつあります。いかがでしょうか。

田中：校友会のもとで一体化していくのか、6つの同窓会それぞれが協力していくのか。どういった連携が理想的でしょうか。

澤崎：例えば、建築系同窓会は同窓会年会費を頂く一方で、それとは別に新卒者の同窓会費も頂いています。校友会と各同窓会は別の組織のように見えますが、同窓会は校友会の下部組織です。

田中：機械系同窓会は、数年前から各同窓会の垣根を低くして交流を図ろうと議論してきました。その一環として、他学部の方にもイベントに来ていただくよう、他同窓会の会長様に声掛けをしています。一体感を持って取り組みたい気持ちは常にあります。

澤崎：例えば、建築系は、機械系、電気系などにまたがる総合的な学問です。そのため、他学部のお話を伺うことは大変役立ちます。

小澤：いかに一体感を生むか。明日からすぐには難しいので、地道に連携を図るしかないと思います。大学で学部学科の新設が進む中、昔のように学部の縦割りではなく、限りなく横断的な学部学科も生まれています。われわれ同窓会も横断的な展開を一生懸命考えていくべきだと思います。

澤崎：今後、学部編成が変わっていくと、これまでの学部系統の分類では括りきれなくなります。

田中：学部学科が新設されると、その同窓会はどうなるのか、という話になります。ただ、もともと6つの同窓会も校友会も自発的に始まった組織です。そのため、新設学部学科の同窓会も有志の集いであるべきだと考えます。

澤崎：有志の集いというのは賛成です。その上で、「新春の集い」のような横断的な交流の場ができれば良いと思います。

小澤：「新春の集い」で、6つの同窓会のうちどこで受付すれば良いか分からない卒業生が今後増えていくことが予想されます。受付に学部学科を明記するなどの配慮が必要です。

志村：校友会と同窓会という2つの組織があるのが、在校生にとっては理解しづらく、将来的に認識のズレが生まれる可能性があります。教員の先生方との連携を強化し、在校生に対し、卒業したら全員、校友会員、同窓会員になるという意識付けが必要です。また、校友会における同窓会一体化の理想がある一方、在校生や若い同窓会員の視点も大事にしていきたいですね。

澤崎：ネーミングの力もあります。例えば、慶應義塾大学の同窓会、三田会の場合、「機械三田会」などすべての名称に「三田会」がついています。

志村：会費の徴収漏れを防ぐ意味でも、同窓会、校友会2つの組織があることを認識させる必要があります。

渡辺：地域に合わせた展開はいかがでしょう。建築系の卒業生が多い県に建築系の専門性の強い先生を呼んで講演を開くなど。また、毎年8月に八王子で開催している「科学教室」の反省会でOBの方々が積極的に出していた意見の数々。これをうまく活用していけたら大いに発展につながると思います。

志村：昨年の科学教室では、校友会のブースがあり、その他に愛知県支部の竹とんぼ教室、西東京支部の飾り炭教室、化学系同窓会のブースが出展していました。今後は各同窓会で1テーマずつ出展しても良いのではないかと思います。

澤崎：全国的に見ても、あれだけの規模の理科教室はありません。

志村：7,400人の来場がありましたよね。

澤崎：さらに集客できるポテンシャルがあるので、駅前にサテライト会場を作っても良いかもしれません。

小澤：全体像をつかんで校友会として科学教室に参画できるよう考えても良いのでは。

志村：2016年度は合計で80数件の展示テーマがありました。

太田：ルミノール反応の教室は、テレビのサスペンスもので有名になったこともあり、小・中学生のウケが良かったですね。

澤崎：最後に、校友会の未来について各同窓会の抱負をお願いします。

田中：学園と校友会は、車の両輪。そんな認識をもう少し強めたいと思います。学内イベントに校友会、同窓会として参画する、学園の評議委員会、理事に優秀な人材を送り込む、など。ヒトモノカネの面で、学園から評価される動きを強化していきたいですね。同窓会は校友会の下部組織ですから、横の広がりを生む親睦と交流に集中していきます。

志村：同窓会のメインテーマは親睦です。親睦を広げるために若い方にも参画していただきたい。そのために、在校生に同窓会があることを理解していただき、興味を持っていただくことが大切です。化学系同窓会では、幹事として若い方や教員の先生方に積極的に入っていただけるよう体制づくりをしていきたいと考えています。校友会については、同窓会との「二段重ね」のメリットを活かし、一体化のためのアイデアを出し合って実現していきたいです。

小澤：校友会が未来永劫続くためには、若い方に積極的に参加していただく必要があります。電気系同窓会では、若い同窓会員に役員になっていただき、在校生など若い方たちと接触して呼び込んでいただくような体制を作りつつあります。2000年代の同窓会員が入ってきており、気軽に若い方がコミュニケーションをとって参画していただけるようになってきました。現在、10名ほど若い役員が活躍しています。また、資格取得報奨制度やインターンシップ表彰に関して、役員会の場に学生を招いて表彰し、会長自ら表彰状を渡しています。今後もこういった掘り起こしに力を入れていきたいです。校友会の未来については、とにかく参加する会員を増やすこと。タイムリーなイベントを増やす、同窓会員のサロンをつくる、アフターファイブの異業種交流会を行う、朝会を開くなど。新宿という地の利がありますから、アイデアを出し合って盛り上げていきたいです。

入社1年目、2年目といった若手社会人のニーズを把握し、彼らが知りたい情報を提供するのも良いかもしれません。

澤崎：同窓会員が知りたいことを聞きに来る場ですね。例えば、建築系の卒業生が電気のことを知りたい時、電気系の卒業生に雷対策について尋ねることができる、など。

小澤：詳しい先生への橋渡しをするのも良いですね。かなり昔の話ですが、ISO9001が出始めた時、海外で働く元アイスホッケー部の卒業生がいまして、連合OB会で説明会を開いていただいたことがありました。そういった専門家を探してニーズに応えられる仕組みをつくれれば良いと思います。

澤崎：建築系同窓会は、工学院大学を誇りに思っていただきたいという思いで『NICHE』など建築とデザインに関する書籍を出版しています。「誇り教育」ですね。実は全ページを、在校生、卒業生、教員の先生方が執筆しています。海外でも販売されているので、海外の卒業生も懐かしく思うのでは。自分の大学に誇りを持っていただき、懐かしく思い帰って来ていただく。そのための場が同窓会です。

太田：高校同窓会は、18歳で卒業しますので、20歳、30歳といった区切りの年齢で集まるクラス会を支援していきたいと考えています。実際に、60歳でクラス会を開いたクラスもあります。各クラス会の活性化のため、積極的に召集をかけるクラス委員の確保が大切です。クラス会を開いた際には、お祝い金を支給しています。

小澤：キーパーソンを見つけて援助するのは良いアイデアですね。

渡辺：専門学校同窓会です。私自身、家を建てた時に、設計を工学院大学の卒業生に頼んだことがありました。家を建てる、会社を起業する、といった時に、学部の垣根を取り払って助け合える仕組みを作れたら良いですね。

澤崎：われわれのやるべきことが見えてきた気がします。皆様、本日は本当にありがとうございました。

機械系同窓会活動紹介
～機械系同窓会は愉快に有意義に～

会長挨拶

機械系同窓会長　田中 英生

昨年の大きな変化は何と言っても学園の憲法であります寄付行為が、大学を取り巻く環境の変化に対応して、大きく改訂された事であります。理事会や評議員会の規模のスリム化や、理事会は意思決定機関、評議員会は重要事項の諮問機関と言う役割の明確化などが反映され、意思決定の速さやガバナンス強化が図られています。

校友会も学園の発展に資すると言う大きな目的のために、連動して舵を切りました。機械系同窓会もそれに呼応してスリムで意思決定の早い若返り体制に取り組みますが、同窓会員相互の親睦提携と言うもう一つの大きな目的も忘れてはならない事です。現在までに築き上げた広い世代にわたった親睦の輪は貴重です。すっかり定着しました機械系同窓会のイベントなどを通じて更に広げて行きたいと思います。今年も有意義に愉快に賑やかにやりましょう。

1.機械系同窓会2016年度の活動内容

今年度の新規事業

機械系同窓会として工学院大学の○○○と言う特徴を生かし、活動を活発にして学園の評価を高めるためには、OB/OG、教職員と学生を交えた連携・交流を進めることが重要との役員会での結論となりました。そこで具体的な形として機機械会（キキカイカイと読みます）なる会を新設し、開催しました。これが本年度の目玉の事業です。

2.今年度取り組んだ主な事業

2.1.第1回および第2回機機械会（機械系教職員との連携・交流会）の開催

本会は、従来の講演と懇親会と言うイベントに加えて今年度新たに取り組んだテーマで、機械系同窓会のOB/OGと機械系の教職員及び学生も交えて情報を交換し、研究に対するヒントや助言さらには就職学生へのアドバイスなどをも行おうとする新しい試みです。

第1回は9月23日（18:30より20:30）に新宿キャンパス28階　開催されました。

機械工学科の学科長 伊藤慎一郎 教授に「動物の動きと人間の動き」という演題でご講演を頂きました。

伊藤慎一郎教授のプレゼンテーション

講演は、自然界の動物の動きがいかに環境に適応しているか、またそれを人間の動きに置き換え、とくにスポーツの分野などにどのように応用されたかなど、興味深いものでした。

第2回は11月24日　校友会談話室にて学生も交えて情報を交換し、研究室の見学もさせて頂くということで、機械システム工学科の高信英明 教授にお願いしました。

高信教授よりロボティクス研究室での研究内容紹介は大変有意義なものでした。

「群知能ロボットの研究」「ヒューマノイドロボットの研究」「ヒトシミュレーター:患者ロボット」などで、最後は学生も交えての懇親会が盛り上がりました。懇親会は缶ビールと乾き物と言う簡単なものでしたが、かえってざっくばらんな雰囲気となり、今までにない交流のスタイルになったと思います。

高信英明教授と研究室の学生

ヒューマノイドロボットなどの研究生の面々

OBも真剣に高信教授のプレゼンテーションを受講

2.2.活躍するOBの報告会

7月9日に新宿キャンパス　高層棟28階「第一会議室」にて開催しました。

第11回になる今回は機械工学科1964年卒の笠原又一氏に講演をお願いしました。

講演は、『国際標準ISOはどのようにつくられるか（国際規格制定の現状と日本の戦略）』のテーマで、国際規格の制定には企業

や国家的利益の獲得がその裏面にあることなどを説明されました。

講師　笠原又一氏ISO/TC123国際規格平軸受SC6の国際議長

なお、OBによる専門性の高いかつ幅広い経験談は、参加学生からも大変役に立つという感想があり、今後は学生にも気軽に参加できるようにしたいと広報手段を検討中です。

2.3機械系同窓会秋の集い
学生プロジェクトと水野明哲先生の講演

恒例の機械系同窓会「秋の集い2016」は10月8日（土）12:45　より工学院大学新宿キャンパス　中層棟8階ファカルティクラブにて開催しました。

出席者40名で機械系同窓会の会員と電気・電子同窓会、化学系同窓会及び高等学校同窓会から各1名とプロジェクトの発表者の学生が参加しました。

学生プロジェクトの発表は次の3件で、

①鳥人間『Birdman Project Wendy』

②KPR『工学院大学ロボットプロジェクト』

③ソーラーカー『ソーラーカープロジェクト』

夫々一生懸命学生がプロジェクトに取り組んでいる状況が報告されました。

昨年度オーストラリアの国際大会でクルーズクラスの準優勝を果たしたソーラーカープロジェクトの発表者

メインの講演は、前学長の水野明哲　工学院大学名誉教授・顧問による「世界のトンネル、日本のトンネル」というテーマで、いかに安全性の高いトンネルをつくるかという内容を、ご自身の体験や研究成果を交えてとくに換気方法からの切り口からお話を頂きました。講演の後の懇親会では、名前を水野香盟師と改めまして熟練の尺八の演奏をお願いしました。

トンネルについての講演中の水野明哲講師

水野明哲（香盟）先生による尺八の特別演奏

3.今後の方針

機械系同窓会では種々の行事を計画し、同窓会員の相互の親睦・情報の伝達などを速やかに広く行きわたるよう努力していますが、教職員の研究成果のPRや、学生プロジェクトの支援など各同窓会にも連絡し、幅広く学園の評価が向上するよう努力したいと考えております。

機械系同窓会「秋の集い2016」の水野明哲先生を囲み記念スナップ

化学系同窓会活動紹介
～卒業生に同窓会をもっと良く知ってもらう為に～

会長挨拶

化学系同窓会長　志村 豊

化学系同窓会長の志村豊（1973年工業化学科化学工学コース卒業）です。どうぞ、宜しく御願い申し上げます。

本学の化学系学科は2015年に先進工学部が開設され、生命化学科、応用化学科、環境化学科の3学科に再編されました。そして、2016年には先進工学部の校舎として、八王子キャンパスに地上8階建ての新4号館が完成しました。これで、先進工学部の教育環境が整った訳です。

校友の皆様と共に、今後の化学系各学科の充実と学生諸君の大いなる活躍を期待しようではありませんか。

化学系同窓会は、教員の諸先生方と協力して、学生諸君に、実りあるキャンパス生活の一助になる様な支援をしていきたいと考えております。

●新4号館

化学系同総会では、卒業生に同窓会をもっと良く知ってもらう為の企画として、「化学のタベ」の開催や、「わくわくサイエンス祭・科学教室」での演示を行っています。

【化学のタベ】

化学系同窓会では、毎月第2土曜日に「化学のタベ」を開催しています。

「化学のタベ」は、通常、新宿キャンパス中層棟8階ファカルテイークラブで開催されますが、昨年は7月に八王子キャンパス新4号館で開催しました。

八王子での開催は、学部3年生・4年生にも聴いてもらいたいとの思いからで、本年も八王子での「化学のタベ」を検討しています。

昨年（2016年）は、

・4月9日：環境化学科　桑折仁准教授
「ドイツ留学の成果と今後の指導について」
・6月11日：旭化学合成㈱　古川和弥氏
「ホットメルト形接着剤の基礎」
・7月9日：シンコー技研㈱
府川通博会長　府川毅社長
「ものづくりへの挑戦の必要性について」
・9月10日：環境化学科　稲葉敦教授
「地球温暖化と持続可能な消費」
・10月8日：化学系同窓会　川島久宜氏
「科学教室の報告と来年の展望」
・11月12日：応用化学科　橋本英樹助教
「機能性鉄酸化物に関する研究～先端デバイスから伝統工芸まで」
・12月10日：化学応用学専攻修士2年
大向嵐氏
「三年間の研究成果と経験値について」

の計7回の講演を拝聴しました。

【科学教室】

昨年8月27日・28日に八王子キャンパスで開催された「第23回工学院大学わくわくサイエンス祭・科学教室」に、「きみは名探偵!ルミノール反応を体験しよう!」の演示テーマで、化学系同窓会として初めて「科学教室」に参加しました。この企画は子供達に評判が良く、多くの子供達が順番待ちの列を作って大盛況でした。そして、白衣を身に着けた子供達と後ろで実験を見守る保護者の皆様が、真剣な眼差しで運営スタッフの説明に聞き入っていたのが印象的でした。

化学系同窓会では、多くの卒業生に「科学教室」の運営スタッフとして参加してもらい、将来は化学系同窓会の運営にも積極的に参画してもらいたいと願っております。

2017年もまた、化学系同窓会として「科学教室」での演示を行います。

若い卒業生の皆さんの参加を待っています。

【将来の活動】

卒業生が気軽に母校へ立寄れる行事は、年に3回あります。

一つ目は、1月に開催される校友会主催の「新春の集い」です。

二つ目は、学園主催の「ホームカミングデー」です。昨年のホームカミングデーは、11月5日（土）、八王子キャンパスで開催されました。

三つ目は、8月に八王子キャンパスで開催される「わくわくサイエンス祭・科学教室」です。

化学系同窓会では、現在、上記以外に毎月「化学の夕べ」を開催していますが、卒業生同士のコミュニケーション・ツールとしては、まだまだ物足りないので、新しいアイデアを募集中です。

そして、近い将来、もう少し違った切口からの企画を立案出来ればと願っております。

例えば、社会経験の豊富な卒業生と若い卒業生が集い、情報交換をする場であったり、技術的な議論を展開する場であったり、同窓会にサロンとしての機能が充実すると、誰もが集まる同窓会として発展することでしょう。

近々、若い卒業生が中心となって、新しい企画を考え実行してくれるだろうと期待しています。その時は、社会経験が豊富なロートルが頑張ってサポートするのは当然です。

●科学教室に初参加

●科学教室の風景（八王子キャンパス）

●八王子キャンパスでの化学の夕べ

●化学の夕べ1

●八王子キャンパスでの化学の夕べ

●化学の夕べ2

電気系同窓会活動紹介
～OB・OG交流会の報告『就職支援を通じた在校生との交流』～

会長挨拶

電気系同窓会長　小沢 和重

電気系同窓会は電気システム工学科、情報通信工学科、コンピュータ科学科、情報デザイン学科の同窓生で構成され、同窓生数は2016年1月末現在約13,600名で、各分野で活躍しています。毎年、学部約250名、大学院約30名の卒業生が同窓生として社会に出ています。3年後にはシステム数理学科が当同窓会に加わります。主な活動は、各分野で活躍している同窓生の紹介や学園の近況などを伝える同窓会誌「隆星」の発行、学生支援活動として資格取得支援（資格取得者79名支援）やインターンシップ報告表彰（昨年と今年で10名を表彰）を実施しています。また、2016年度から学園主催のOB・OG交流会に協力参加することといたしました。今後も同窓生と未来の同窓生である学生のための活動を継続していきます。

電気系同窓会では、Facebookで各種情報を発信しています。校友会ホームページからリンクしていますので是非ご覧下さい。

本学就職支援課の企画で、「OB・OG交流会」が新宿校舎で開催されました。本稿では、このイベントについてご報告をさせていただきます。

■イベント概要

1. 趣旨

就職活動を行う学生が、業界、業種に関する知識を深めることを目的として行うもので、本学卒業生の中から、様々な分野の一線で活躍するOB・OGに気軽に質問する機会を設けることで、就職活動をより充実したものにしてもらおうという趣旨で開催されました。

2. 日時・場所

12月8日（木）17:30-19:00
新宿校舎11階A1165教室、A1161教室

3. 内容

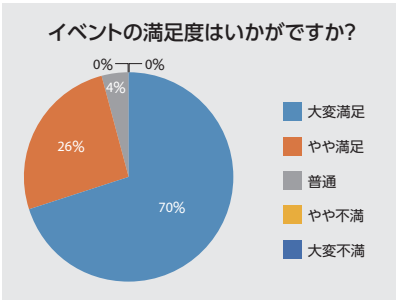
今回は、同課からの協力依頼を受け、電気系同窓会から8名のOB・OGが本イベントに参加しました。OB・OGの自己紹介をした後、各テーブルに分かれ、グループ単位でのフリートーク形式で行われました。

■学生からの反応は上々。次回に向けて改善点もあり。

今回のイベントでは、学生は延べ27名の参加があり、非常に活気のあるディスカッションが行えたように見受けられました。

学生の関心は、当初予想していた、業界、業種の知識に関する質問より、就職活動の進め方や、大学院へ進学することに対しての質問が多かったようで、これから就職活動を開始するにあたっての心構えや、仕事に対する考え方、希望する職種に就くためにはどうすればいいのかということに集まっていたように感じました。

後日回収されたアンケートからは、「自分の知らないことがたくさん聞けた」「OB・OGにしか聞けない話が聞けた」「2回目も参加したい」「座談会の回数を増やして欲しい」という意見も聞かれ、満足度調査の結果、96%（図参照）の方に満足いただけたようです。ただし、OB・OGは、電気系同窓会から呼びかけたこともあり、IT関連の大手企業、独立業が多かったため、電気系以外の学部の方からは、自学部のOB・OGの話を聞いてみたいという意見がありました。次回は、他の同窓会からも様々な業態、業種の諸先輩方をお呼びできるようにできると、より良いイ



ベントにできるのではないかと思います。

「就職支援課としては、本イベントを通じて、就職活動を開始して欲しい」という意図もあったと後にお聞きしており、意図通りの結果を得られたようで、有益なイベントになったと考えます。

■OB・OGも多くを学び。企業と大学の架け橋としての役割を感じる。

OB・OGからの感想として、学生に対する感想と、イベント全体に向けての感想があったので、それぞれピックアップしてご報告したいと思います。

まず、学生との相談を受けたことに対する感想として、「会社を選ぶ基準として、自分とマッチしているかという視点が欠けている」「最終目的が見えていない学生が多い」「自分で考えて就職活動ができていないように見える」「研究内容を活かして就職しようとして無理が出ている」「就職活動を始めるのが遅い」などがありました。就職に対する考えが稚拙なことを心配する声が多く聞かれましたが、「こういったイベントを通じて、啓発できるのは良いこと」「この頃の自分もそうだったので、何か力になりたい」という前向きな意見もありました。また、社会全体の就職活動の開始時期に比べ、本学の学生は遅いという意見もあり、この点については、就職支援課にも今後の活動の参考にしていただきたいと思います。

また、本学のリクルーター（採用面接の1次選考を一般の職場にいる若手社員に出身校の採用プロセスを任せる新しい採用手法）として関わっているOBからは、「会社的な採用ルートについて多く聞かれた」「どのような人を推薦するのか」といったリクルーター制度そのものに近い質問もあったと聞いており、新しい採用形態について関心が寄せられている実態が明らかになりました。

■大学との接点を持てるイベントに多くの校友の参加を期待。

イベント全体に向けての感想ですが、「このような形で大学に貢献できるとは思わなかった」「次回は、もっと準備して是非参加したい」という意見があり、社会に出てから接点が薄くなりがちな大学との関係をこういったイベントで再認識できるようになるのは、校友会としても良い効果が見込めるのではないかと感じました。就職支援課より、次回も企画したいとの話があるようなので、ご協力頂ける方がいらっしゃれば、校友会事務局まで一報頂けるとありがたいです。

また、大学の中で、校友の露出の機会を増やすことは、学生の意識を高める他、学生に対して先進技術に対する学習の機会を提供したり、校友の社会的な存在感を増す機会になったりと、様々な面でメリットがあるように感じました。就職関連に限らず、このような活動を、校友会が学園と連携して行う機会を増やせるよう、電気系同窓会としても進めて行きたいと思いますので、皆様におかれましては、引き続き、ご協力を賜りますようお願いして、報告に代えさせていただきたいと思います。

●執筆者プロフィール

箕谷祐也 みたにゆうや

2002年／工学部情報工学科卒
2004年／電気・電子工学専攻修了
同　年／アロカ株式会社（現日立製作所）入社
2009年／同社退職
2009年／イートライアル株式会社入社
2014年／同社退職
2014年／ライタス株式会社設立　同社代表取締役に就任　現在に至る

建築系同窓会活動紹介
～工手学校研究と近代建築保存～

会長挨拶

建築系同窓会長　鈴木 敏彦

建築系同窓会誌『NICHE』は1968年に創刊し今年記念すべき第40号を発行します。創刊から50年、幾度かの危機を乗り越えた先に本号があります。改めて先輩方の功績を讃えると共に、未来に叡智を受け継いでいきます。

本号ではドイツ建築探訪と題して、工手学校の師弟でありドイツに留学した妻木頼黄と矢部又吉、ベルリンの住宅が世界遺産に指定されて注目の高まるブルーノ・タウトを再考します。ドイツでは古いものを大事にします。タウト設計の1920年代の集合住宅が今でも大事に使われています。また、古い車のナンバープレートにはHistorisch（歴史的な）のHの文字が誇らしげに刻印され、税金が優遇され、なにより尊敬を集めます。これからも温故知新の見地から、校友の皆様と共に未来につながる道筋を探って参ります。

「建築系同窓会の二つの取り組みについて」

建築系同窓会の近年の活動を振りかえると、二つの使命を感じざるを得ません。

一つは、本学の前身である工手学校に関する継続的研究です。工手学校出身者が明治の日本および台湾の発展に果たした役割を明らかにし、広く世の中に発信していくことは、工学院大学を引き継ぐ私たちの大きな誇りと希望につながると信じています。研究成果は1999年よりNICHE（同窓会出版物）の誌面において「輝かしき先輩達」と題して報告してきました。2012年、この連載に新たな記事を加え、『工手学校―日本の近代建築を支えた建築家の系譜―工学院大学』（彰国社）という単行本を出版しました。2014年度にはNICHE編集部で台湾を訪ね、日本統治下および台湾の発展に大きく貢献した工手学校卒業生の梅澤捨次郎の仕事を取材して『NICHE02　台湾建築探訪』を出版しました。2015年度にはフランスを訪ね、本学アトリウムの胸像のひとり、第2代管理長であった古市公威先生のフランス留学時代の足跡を追い『NICHE 03 フランス建築探訪』を出版しました。そして2016年度は「ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉」と題して工手学校の師弟 関係にあった2人を取材し、2017年6月の『NICHE 04 ドイツ建築探訪』の発行を目指して鋭意編集作業をすすめています。

二つ目は近代建築の保存に関する活動です。きっかけは、2015年10月に八王子図書館の解体を突きつけられたことでした。1979年12月に竣工した「八王子図書館」は、工学院大学の教授であった武藤章氏（1931-1985）の代表作品の一つです。武藤先生は、20世紀の建築とデザインを牽引するフィンランドの巨匠、アルヴァ・アールト氏（1898-1976）に直接学んだ唯一の日本人建築家で、「八王子図書館」には北欧の建築の特色が色濃く現れていました。建築系同窓会では図書館の保存を強く訴えてきまし

●『工手学校―日本の近代建築を支えた建築家の系譜―工学院大学』（彰国社）

建築学部同窓会会誌「NICHE」が13年間連載した類州環氏執筆「輝かしき先輩達」を軸に、藤森照信・茅原健、両氏が工手学校の教育と生活を語った。外部の研究者も加え「工手学校⇒工学院大学」の日本の近代建築の新しい系譜を明らかにした。この誇りある記録は、改めて日本初の中堅技術者教育機関として、工手学校が果たした大きな役割を世に問うものである。

●『建築を保存する本01工学院大学八王子図書館/武藤章 1979年12月竣工～2015年10月解体』

八王子キャンパスの再開発により解体された八王子図書館の記憶を後世に受け継ぐため、工学院大学建築学部同窓会は『建築を保存する本01』を12月15日に発刊した。

たが、様々な理由によって解体を阻止できない現実を思い知らされました。そこで、建築の記録と保存の方法を模索する中で「建築を保存する本」の発行に至りました。解体直前の詳細な取り下ろし写真72カットと108枚に上る実施図面意匠図のすべてを一冊の本にまとめました。この本さえあればいつでも再建できると思うと少しは気が休まります。『建築を保存する本01工学院大学八王子図書館/武藤章　1979年12月竣工〜2015年10月解体』として2015年12月15日に丸善出版株式会社より全国発売を開始しました。

2016年3月、同じく武藤先生が1968年に設計した「工学院大学白樺湖学寮」が閉鎖されました。建物の解体も決定していました。今度こそ武藤先生が設計した珠玉の建築を残す方法はないものか。建築系同窓会では大学から土地の借地権と建物を引き継ぎ、一部を減築して「白樺湖 夏の家」としてリニューアルしました。アールトをはじめとするフィンランド・デザインの家具、照明、カーテン、テーブルウエアでインテリアを一新し、北欧の暮らしを学ぶ空間に生まれ変わりました。奇しくもフィンランド独立100周年にあたる2017年5月から本格始動いたします。北欧をテーマとする様々なイベントも企画し、夏の家の主旨に賛同した会員および関係者を中心に維持活用していきます。また、このように使いながら保存する試みを『建築を保存する本02』(2017年12月発行予定)にまとめ、広く社会に発信していきたいと思います。ぜひ、校友のみなさまの温かいご支援をお願い致します。

「工手学校」と「建築の保存」。この二つの柱を中心に据え、温故知新の見地から、校友の皆様と共に未来につながる道筋を探って参りたいと思います。

●「白樺湖 夏の家」　管理人棟、セミナー室棟の減筑後の外観

アールトに学んだ唯一の日本人建築家・武藤章の建築の動体保存の試み

●「白樺湖 夏の家」リビングルームの内観

施 設 名：白樺湖夏の家　工学院大学旧白樺湖学寮1968-2016
所 在 地：長野県茅野市北山29
主要用途：フィンランドの巨匠アルヴァ・アールトに学んだ唯一の日本人建築家で工学院大学教授であった故武藤章先生(1931-1985)が設計した建築の動態保存を目的に、主に北欧の建築とデザインに関する講演会やワークショップ等に活用する。「白樺湖夏の家」を拠点に、北欧の暮らしに学ぶ環境づくりを啓発し、白樺湖の地域の活性化に貢献したい。校友を中心に会員制で利用、維持管理を行う。

高校同窓会活動紹介
～母校での再会の場「おもいでCafe」～

会長挨拶

附属高校同窓会長　若林 勝司

日頃は附属高等学校同窓会に、ご支援・ご協力をいただきまして感謝申し上げます。太田正利会長の後を引き継ぐことになりました若林です。微力ではありますが全力を尽くして、高等学校同窓会活動を行いたいと思います。

私は、1968年新宿校舎最後の卒業生でした。北里大学に進学後、製薬会社へ就職。30歳で交通信号システム・鉄道信号システム・パーキングシステムなどの交通システムを取扱う交通システム電機株式会社へ転職いたしました。40代で代表取締役社長に就任し、経営者として責任の重さをひしひしと感じました。その経験を活かし、同窓会活動を進めていきたいと思います。就任にあたりまして会員の皆様、ご父母、教職員の皆様におかれましては、連携を保ち学生・生徒のために、なお一層のお力添えをお願い申し上げて、会長の挨拶とさせていただきます。

「おもいでCafe」は高校の夢工祭（文化祭）に出店する喫茶店で、OB・OG有志が企画運営する高校同窓会の特別事業です。2011年からスタートしたこの企画は毎年ご好評をいただき、昨年で6回目となりました。

高校OB・OGの皆さまは卒業後、母校を訪れたことがありますか?年配の世代からみると旧校舎はなくなり、体育館は新築され、畑の中にポツンとあった柔道場の辺りには立派な中学校棟が建っています。クルマで近くを通ったけれど「立ち寄ったら、ご迷惑になるかも」とか、「恩師が不在だったら気恥ずかしいな」と躊躇する方もおられることでしょう。

卒業後も母校を訪問しやすいのは、やはり「夢工祭」（文化祭）!という声を多く耳にします。中学生・高校生の展示物や出展企画を見学したり、所属した運動系クラブが中庭に出した飲食物の屋台で小腹を満たしたり。恩師と再会して思い出話、立ち話という光景も目にします。そして、卒業した仲間との再会。「久しぶりに会った同窓生と校舎の中で落ち着いて話ができる処はないか」と、場所探しに苦労した話を聞きました。

それならば、"夢工祭でOB・OGが集える憩いの場を"と始まったのが「おもいでCafe」です。事業目的は賀詞交歓会、報告会兼意見交換会（社員総会）、八王子懇親会以外に年間を通じてOB・OGが集い触れ合う機会を増やすこと。また、現役の高校生に高校同窓会の活動を知ってもらうことも目的の一つになっています。もちろん、生徒や保護者、一般の来場者もご利用いただけます。

「おもいでCafe」は高校校舎3階の校長室奥という隠れ家的立地から、誘導パネルや掲示物、喫茶用品に工夫を凝らしています。アイキャッチの役割を果たすピクトグラム（絵表示）は、マスター（運営責任者）である荒井翔平さん（2009年卒）の作品。提供す

るメニューは主にホット(アイス)コーヒーやソフトドリンク、おにぎり、クッキーなどシンプルかつ安価でキャッチフレーズは「ALL100(全て100円)」。学校行事の一出展者なので、残念ながらアルコール類は提供できません。喫茶用品は手間と予算を考え、使い捨ての紙カップ・プラコップ等と毎年使えるコーヒーメーカー・小物備品等に分けて管理しています。この企画は売上が目的ではありませんが、過去に来店客が多くて収益が出たときには高校援助金として寄付を行いました。

そして、「おもいでCafe」内には展示スペースを設けています。高校同窓会報、校友会報等の配付物はもとより、過去に制作した企画写真パネルなども配置し、同窓会活動の情報宣伝活動に努めています。また、来店客に楽しんでいただこうと工学院大学マジシャンズソサエティの協力でマジックショーを企画した年もありました。125周年募金事業の際には募金箱とのぼりを設置し、微力ですが貢献しました。

夢工祭に合わせた企画運営なので、設営準備と後片付けは時間との勝負!マスターや運営スタッフは仕事や学業を終えてから駆けつけ、休日に買い出し準備をすることもあります。その努力が実り、おかげさまで毎年多くのOB・OGが立ち寄り、憩いの場としてご利用いただいています。今年度も「おもいでCafe」を出店する予定ですので、夢工祭へお出かけの際はぜひお立ち寄りください。運営スタッフ一同、ご来店をお待ちしています!(企画詳細は当会ホームページに掲載)

なお、「おもいでCafe」運営においては学校行事「夢工祭」への参加許可をいただき、当該教室を2日間借用しております。また、夢工祭パンフレットへの掲載もご配慮いただいており、この場をお借りして母校教職員の皆さまへ厚く御礼申し上げます。

運営スタッフ募集!

「おもいでCafe」運営スタッフを大募集!卒業しても「夢工祭」を楽しみたい人、来店するOB・OGと交流したい人、OB・OGに悩みを聞いてほしい人・・・等々。いっしょに「おもいでCafe」を運営しませんか?

【運営スタッフ募集要項】

- 当会員で、にこやかにお客様を迎えられる方でしたら老若男女を問いません。(裏方は寡黙でも可)ただし、飲食を提供するのでマスター(運営管理者)の命令は絶対です!(笑)
- 準備;夢工祭前日の夕刻~晩に会場設営として若干名。
- 運営;夢工祭当日(2日間)に若干名。どちらか1日、午前・午後だけでもOKです。
- 休憩時間;交代で・・・たぶん、あります。(汗)
- 時給、交通費は・・・ごめんなさい、ボランティア精神で。

専門学校同窓会活動紹介

活動を若手を中心に移行し、イベントに多くの会員を呼びかけていく

会長挨拶

専門学校同窓会長　渡辺 征三

2016年度は、5月の代議員総会：同窓会報告会に始まり、7月の川崎屋形船クルージング、12月の刀鍛冶研修会を行って来ました。新春の集いでは総合司会、殺陣演舞、佐藤利美氏による「下原刀の復活」と工手学校オンパレードで創設時を再現したかのようでした。また、学園の科学教室、ホームカミングデー、それに創立記念式では舛井さん、畠山さんの表彰が行われました。2017年度も昨年度と同様に企画案内して行きます。更に9月9日北海道で行われる全国大会には多くの同窓会員が参加し交流を深めるよう呼びかけますので参加をお願いいたします。

【大勝靖一賞表彰】

2016年10月31日の創立記念式典において高田理事長から<大勝靖一賞>が、舛井寛一さん、畠山忠弘さんに授与されましたので報告します。表彰来歴をご覧ください。同窓会はもとより校友会、支部活動の席で積極的に両氏との意見交換をお願いいたします。

舛井 寛一／昭和19年　3月工学院造船学科卒業

畠山 忠弘／昭和41年　9月工学院大学専修学校機械科卒業

●左から舛井さん、前回受賞の梶野さん、畠山さん、高田理事長

【功績内容】

○舛井寛一氏

工学院造船学科卒業後、造船関係の業務に従事するも終戦により食肉業に転業。株式会社マスカンを創業して代表となり、広島食肉協会理事長等を歴任し、藍綬褒章や勲四等瑞宝章受章の他、農林水産大臣表彰・県知事表彰等、多数受賞した。

また校友会広島県支部長に就任、他方広島ペンクラブ会員として、著書「花の下」を平成4年に発表するなど、多方面において活躍し母校の発展に寄与した。

○畠山忠弘氏

工学院大学専修学校機械科卒業後、家業の鉄工業に従事し、畠山鉄工所を継承。冷凍技術の技能向上に研鑽し、全国冷凍空調管理1級技能士（金賞）に認定される。その後、厚生労働大臣表彰・国土交通大臣表彰・県知事表彰等多数受賞したほか、地元冷凍設備工業会理事長等を歴任した。また校友会岩手県支部副部長に就任、東北地方の支部の一員として活躍し、学園百周年募金事業にも協賛するなど、多方面において貢献した。

※大勝靖一賞は、工学院大学名誉教授、元専門学校校長・大勝靖一氏から寄付された金員をもとに、工学院・工学院専修学校・工学院大学専修学校及び工学院大学専門学校の卒業生で、社会において顕著な業績をあげた者を表彰し、もって専修学校及び専門学校卒業生の社会活動を奨励することを目的とする。

「鍛刀見学会に参加して」

2016年 12月3日　松岡美織

前回「古(いにしえ)の武術、技術を訪ねて」に続き、今回も同窓会の企画に参加させて頂きました。「鍛刀見学会」は大変好評のため、毎年12月の第一週の土曜日、恒例になった見学会です。昨年はどうしても参加ができず、とても、とても、とても楽しみにしていた見学会でついに!見学できました。本学1987年　金属科をご卒業された刀匠 佐藤 重利先輩の鍛錬所の見学です。

佐藤先輩は海外でも人気のある刀匠で、銘は「八王子住　重利」で刀に「重利」と刻まれてあったら、それは佐藤先輩がお作りになられた刀です。見学会では小さな刃物の焼き入れ、焼き戻し、砥ぎまで体験させてくれます。この体験がまた中身が濃く、ただの体験だけではなく、鉄の歴史、鉄の組織から実際の体験までできき、特にたたら炉や、ダマスカスの剣、デリーの鉄柱などのお話しはとても興味深く、あまりにも深すぎて一言では説明ができませんが、鉄づくりのルーツや鉄の神秘を知る事ができました。ジブリ映画の「もののけ姫」に出てくるたたら場、女性が足場を踏み込んでいる場面です。そのお話しもしてくださり、ジブリの鉄の知識にも驚かされますが、それほどに昔の鉄の製鉄技術はとても優れていたようです。また頂いたテキストなどはあまりにも詳しく、一冊の専門書としても使えるほどです。テキストは、佐藤先輩の先輩の平山先輩が作成され、年々内容がパワーアップ

しているそうです。(この先輩後輩のつながりが羨ましいですね)職人という業種になると思うのですが、私は職人の方は技術中心だと思っていました。けれど佐藤先輩の凄さは技術だけではなく、鉄の歴史から鉄の組織まで大変造詣が深いのです。鉄などで知らない事はないほどに何でもご存知でいらっしゃいます。いきなりチョークで化学記号を書き始めて説明してくださいましたり、鐵-炭素系平衡状態図はとても重要な図であり、実はこの図は100年以上前からあるとても重要な図なのだそうです。学術的に裏打ちされた解説には、説得力があります。　鉄の温度は重要であり、誤差の幅がとても狭いと思いました。佐藤先輩は、色など炎の形で温度が分かるそうです。1℃単位以内で分かっていらっしゃっています!

私達素人には同じ色などに見えるのです…が。

なぜ佐藤先輩は改めて専門学校に入られたのかとお伺いしましたら、お師匠様のお父様が現東京大学の先生でいらっしゃり、組織の勉強も必要との事で改めて現工学院大学専門学校にご入学されたとお伺いいたしました。技術だけではなく知識、歴史もあり、その結晶が刀として具現化されていました。更には「美」まで合わせ持つこれまた神秘的なものでした。私が佐藤先輩を見て一番驚いたのが、もちろん技術、知識も凄いのですが、何より楽しんでいらっしゃる所でした。説明をしてくださる時も、実演を見せてくださる時も、普段の時も、とにかく何でも楽しんでされていらっしゃる所です。ただ、ただ純粋にお好きなのだと思います。それとちょっとお茶目な所がありまして、そんな所も含め、精神の高さをとても感じました。

他にも極めた方にお会いした事がありますが、その方も同じように本当に、ただただ純粋にお好きで楽しいのだと思います。だからこそ極められるのではないかと思いました。何かを極める、本当に厳しい道ではないと思いますが、本当に何かを極めた風景とは、私達の今見ている風景とは違う風景なのだと、自分もそのような風景を見てみたいと思いました。焼き入れ、焼き戻しをした後、刃物を砥ぐのですが、まったくもってこれは本当に切れるのか?と不安になりましたが、やはり佐藤先輩が砥ぐと光りだし、切れるようになりました。やはり佐藤先輩は凄かったです。出来た時の感動ったら嬉しくてなりませんでした。一つだけの自分の刃物です。自分で作ったからこそ、とても愛着が湧きました。

ここで詳しくお話しするよりも、実際体験して頂いて、説明を頂いた方がいいと思いますので、是非とも皆さん見学会に参加してみてはいかがでしょうか!女性には嬉しいプレゼントもあります☆佐藤先輩のお師匠様のカミソリは2年待ちだそうです。気が遠くなる年月ですが、それでも待っても欲しいと思うほど凄いのですね。見学会の後、年末でしたのでそのまま忘年会となりました。他にも色々とご活躍されていらっしゃる先輩方がいらっしゃり、熱い想いをお話しくださいました。その熱いお話しを伺い、自分は将来後輩にこのように伝えられる事ができるのだろうか。後輩を導いていけるのだろうか。と不安になりました。先輩とは、導いてくれる存在であり、助けてくれる存在であり、勇気をくれる存在であり、やはり憧れの存在でなければならないのだと思いました。

工学院大学専門学校は廃校になってしまいましたが、佐藤先輩方の時代は、東大の大学生にも劣らない技術と知識を持っていたそうです。一流になられた先輩方がとても多いです。当時は辛い時もお互い仲間や先生が助けてくれ、辛いけれどとても楽しい時だったと皆さん笑いながらお話しくださいました。皆さん、学科関係なくとても仲がいいのですよ。現代はあまり人との関わりを敬遠される時代かもしれません。けれど私たちは人と関わらずに生きていけません。次の時代は私達が担うのです。自分の幸せだけではなく、もっと広い眼で物事を考えさせてくれる、そんな見学会でした。と、熱く語ってしまうほど学びの多い見学会でした!そしてそんな先輩方がいらっしゃる専門学校に入って良かったと思いました。

はじめに

校友会では、校友相互の懇親および校友と在校生の交流強化の一環として、皆様の学生・生徒時代のクラブ活動を基盤とするOB・OG会との連携を強化すると共に、校友の皆様にOB・OG会の活動の様子をお届けいたします。

今年度は、次のOB・OG会から近況報告が寄せられました。空手道部OB会、弓道部OB会、グリークラブOB会、三和シャッターOB会、鉄道研究部OB会、ボクシング部OB会、ヨット部OB会の7団体です。その内、5団体が初お目見えです。いずれのOB・OG会も、特徴のある活動を展開しつつ、校友相互の親交を深め、さらには母校の在学生諸君との交流を軸に母校の支援を進めておられます。

尚、今回、この特集では御紹介出来なかったものの、活発に活動しておられるOB・OG会がまだたくさんあることを確認しております。いずれ、御紹介したいと考えております。

校友会では、OB・OG会の活動をご紹介すると共に、新たな情報のご提供をお待ちしております。

これからも楽しく頑張りましょう（空手道部OB会）

オリンピックが楽しみです

空手道部OB会（淀橋会）　会長　佐藤 昌志

空手道部OB会『淀橋会』の紹介をします。空手道部の歴史は1955年部活動として認められ62年目を迎えようとしています。鹿児島から北海道まで全国に連絡の取れる会員は230名程です。

活動は、現役学生への支援と会員同士の親睦を主体に空手道部の行事に合せて行っています。昨年6月には50年以上の歴史のある東都六工大空手道選手権大会の主幹校として新宿キャンパス1Fアトリュウムにて大学からのご支援を頂き現役・OBが一致団結して盛大に開催することが出来ました。

11月には代々木オリンピックセンターにて、第29回全日本理工科系空手道選手権大会に現役学生と共に大会役員・審判・応援にと多くの先輩方に協力頂きました。

合宿にも参加、昨年春は内房の岩井、夏は伊豆白浜80歳の安井先輩をはじめ10名近くの先輩方が昔を思い出し乍ら学生と一緒に汗を流しました。終わった後の酒は格別でした。

12月には新宿キャンパス地下道場にてOB・学生合同練習、OB杯争奪戦、追出し稽古、昇級審査会と恒例の行事が行われ終了後三平酒寮にて総勢40名ほどで納会を開催しました。空手道部張ヶ谷顧問、日本空手協会蔵迫師範の出席を頂き幹部交替、OB杯争奪戦の表彰式等々おいしい酒を飲みながら楽しいひと時が過ごせました。

これからも現役学生の支援と会員同士の親睦を楽しく続けたいと考えています。

みんなで楽しむ弓道（弓道部OB会・工弓会）

弓道部OB会・工弓会　副会長　古川 和弥

私たち弓道部は、1999年に「弓道さーくる」として立ち上がり、2001年に部への昇格を経て現在17年目を迎えております。また、弓道部OB会・工弓会は、2006年の発足から12年目となる、まだまだ歴史の浅い部活・OB会です。

現在、約50名が工弓会に所属しており、弓道をする機会の提供やOB/OG・現役生相互の親睦、現役生へのサポートを目的に活動を行っております。2013年には、八王子キャンパスに公式戦でも使用出来る広々とした弓道場が竣工され、現役生達が素晴らしい環境で弓を引くことができることを大変羨ましく思っております。

工弓会としての年間活動は、弓を引く機会として「工弓会弓道大会（OB射会）」「全関東学生弓道選手権大会・OB対抗戦」「東京都学生弓道連盟OB懇親射会」があり積極的に参加しております。また、年一回の「工弓会総会」では、会員が集まって現役生との親睦会を開いたり、「進路相談会」では現役生に対する進学・就職アドバイスをする機会を設けたりと、若手OBならではの企画を実施していたりします。

八王子キャンパスにお越しの際は、是非素敵な弓道場を見学に来て下さい。

●弓道場お披露目会の集合写真

●OB射会の集合写真

現役合唱団復活を目指して（グリークラブOB会）

グリークラブOB会　会長　山田 伸一

現役グリークラブ（男声合唱団）は昭和63年（1988年）廃部になり、その後　各年代で続いていたOBの交流が、校友会誌の記事をきっかけに、2013年OB会として発足し、今年15年目を迎えるに至りました。会員数は総勢280名を数えています。

OB会の活動目的は二つあり、一つは会員の親睦、並びに本学に何らかの貢献をすることにあります。

例年、校友会主催の「新春の集い」、6月の「体育会連合OB会総会」での校歌斉唱、10月には八王子祭、11月には新宿祭へ参加しているのは、その一環と云えます。創立125周年（平成24年10月）の記念式典には厳粛な中で校歌斉唱の場を頂き、脈々と続く本校の歴史の中に参加出来たことを誇りに思っています。

二つ目は、本学に現役合唱団（女子学生の多さから混声も視野）を復活させることです。

これまで、学内にポスターの掲示、OB会のホームページ等でのPR活動をしていますが、効果が出るまでには至っていません。昨年は、新入生に合唱の魅力を伝えようと入学式会場でOB会が歌う校歌をCDで流して頂きました。（父兄の方々にも好評だったようです。）又、恒例の部活勧誘イベントにはOB会のブースを広場の一角に設けて頂き、現役学生に交じって活動をさせて頂きました。

結果、予め用意したアンケートに24名の新入学生から回答を頂き、内1名が新宿キャンパスでの練習に参加してくれました。しかしながら、現役合唱団の無い悲しさからか、数回の参加に終わってしまったのが残念です。勧誘活動を通しての収穫は、新入学生の中には意外と合唱経験を持ち、興味を示してくれる学生が多かったということです。

大学側のご厚意により今年も引き続き勧誘活動を計画し、キャンパスが新宿と八王子に分かれているハンディキャップはあるものの、それを乗り越え復活の実現に向かって邁進していきたいと思います。

学園行事へ積極的に参画する三和シヤッター工学院OB・OG会

三和シヤッター工学院OB・OG会　幹事・会計担当　川瀬 大介

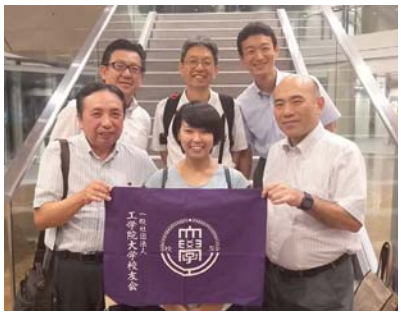
三和シヤッター工学院OB・OG会は、33名のOB・OGが在職しています。同会は、校友会の理事（支部組織部長）を務める上野耕平氏（電気工学科1973年卒業）が会長として首都圏地域に勤務する校友と中心的役割を担い、年間活動計画の企画・立案、会員への情報発信等を行い、会の維持・運営を図っています。

年度活動計画では、「新春の集い」、「校友会総会」、「ホームカミングデー」、「各地区支部会」等への参画が定例的に行われ、ローカルな活動としては、主に「OB会総会」や「東京マラソンボランティア活動への参画」を行っています。

平成28年度は新たに卒業生3名が入社し、そのうちの一人が当会初の女性会員ということで大変盛り上がりました。今年度も卒業生2名の入社が決まりましたので、当会は益々、盛り上がることでしょう。

なお、三和シヤッター工業㈱は昨年4月に60周年を迎え、本誌に広告を掲載、また、今年の「新春の集い」では、マリリンモンローのマウスパッドや所属の青木瀬令奈女子プロサイン入りゴルフボールなどを景品として提供しました。在校生の皆さん、是非、三和シヤッター工業㈱を就職先候補に加えてみてください。

●2月28日（日）東京マラソン



●8月19日（金）新入会員歓迎会

●2017年1月8日（日）「新春の集い」の後の新年会

鉄道研究部が創立10周年を迎えました

鉄道研究部OB会　山口 直彦

2006年6月に工学院大学鉄道研究部（当時は同好会）を立ち上げ、早くも10年の月日が経ちました。

設立当時よりオープンキャンパスや理科教室などに鉄道模型を展示し、人気のアトラクションとなりましたが、始めた当時は予算も少なく、会員がそれぞれ資材を持ち寄って製作を行ってきました。

鉄道研究部OBは鉄道業界に就職する人が多いため、先輩から後輩へ人脈をつなぎ、現役生の活動をサポートするために2007年からOB会として組織づくりを進めています。

そんな研究部創立時から続く先輩から後輩へのつながりが実を結び、2016年11月には創立10周年記念行事として、鉄道研関係者だけでなく、一般のお客さんも聴講できる形で「工学院大学鉄道研究部　創立10周年記念シンポジウム」を企画・開催いたしました。当日はスペシャルゲストとして、音楽家・実写映像を用いた鉄道シミュレータ製作・新型ホームドアの設計等で活躍される向谷実氏にお越しいただき、大変貴重なお話をしていただきました。

まだまだ若造ばかりが集まる団体ですが、後輩と連携をとりながら鉄道研の活動を盛り上げ、さらにこの先15周年、20周年と活動を継続できるように努めていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ボクシング部OB会長就任にあたって

ボクシング部OB会　会長　宮地 政浩

2016年度、ボクシング部OB会長に就任しました。

執行部メンバーの若返りを図る目的もあり、大先輩から引き継ぐこととなりました。歴史あるボクシング部のOB会長ということで責任の重さを感じています。

卒業してから現在までの22年間、コーチ、監督と現役を直接指導する活動をしてきました。これまでも、技術面はもちろんですが練習を通して礼儀、考え方、頑張り等、工学院大学の学生として、ボクシング部の部員として恥ずかしくないように指導を行ってきました。今後もより一層力を入れてこれらの指導を続けて行きたいと考えています。

卒業後、何人かは練習やOB会に参加してくれていますが、ほとんどの学生は卒業後に繋がりがなくなってしまいます。現在（学生の間）だけではなく先々（OBになってからも）も、点ではなく線で繋げなれるようにして行きたい。学生がOBとなった時に練習やOB会に参加できるような関係、環境を作って行きたいと考えています。

忘れがちですが、主役はOBではなく現役です。OB本位にならないようにサポートして行きたいと考えています。ただ、現役の好き勝手やらせればそれで良いというのではなく、先にも述べましたが工学院大学の学生として、ボクシング部の部員としてどこに出ても恥ずかしくないようにしっかりとした指導を行っていきます。

●学内リングでの練習風景①

●学内リングでの練習風景②

●学内リングでの練習風景③

ヨット部OB「タモリカップ 横浜大会2016」に初参加

ヨット部OB　長 信次郎

9月11日横浜ベイサイドマリーナで開催されましたタモリカップに初参加しました。東京湾相模湾に停泊した艇、大小180艇約2000人参加の盛大なレースでした。レース中は酷い雨に見舞われ、ズブ濡れの中老若男女雨にも負けず事故もなくレースは無事終了しました。我がチームは36フィートに10名40～73才のメンバーで挑みクラス別で45艇中8位と検討しました。このタモリカップは4年前から各地で行われ、2016年は富山県・福岡県・東北と4箇所で開催されました。レース後のパーティーには雨はピタリと止み、表彰式・バンド演奏と盛大なパーティーは、やはり芸能界のボス的存在のタモリさんの開催だけに、夕餉のパーティーを心なく楽しみました。食事に出たカレーは前日からタモリさんが腕を振って作り大盛況、又各艇ごとにコスチュームを揃え、コンテストもされましたが、今年は雨天の為折角のコスチュームも披露できずに残念でした。来年の大会にはコスチューム・レース共の2冠を目指しチャレンジします。

東京支部の活動について

東京支部長　椋田 實

東京支部は活動の要として7つのサークルが世話人を中心に活動しています。支部役員会は隔月開催で、支部を運営しています。支部報告会は例年9月末の日曜に開催、その後特別講演会、懇親会を行っています。「東京支部だより」は毎年発行し、昨年で25号となり、活動報告を会員に送付しています。支部役員の高齢化が進んでいるため、昨年度、若返りとして7名の新幹事が増えました。年末には忘年会を行い楽しく1年を締めます。各サークルに参加をご希望の方は世話人または校友会事務局にご連絡ください。活動状況は校友会サイトの支部掲示板に掲載しています。以下にサークル活動を各世話人が紹介します。

●囲碁サークル

学友、在学生、初心者の方、友達、家族等遠慮なくご参加ください。会費は無料で、参加予約は不要です。遅刻、早退は自由で、見学だけでも可能です。囲碁サークルの開催は、原則毎月1回、第4土曜日で、時間は、13時～18時です。新宿校舎28階の第4会議室です。対局の条件は点数制を用いています。

【世話人 長島 珍男】

●俳句サークル（東京俳好会）

俳句は余生を楽しく元気に、生き生きと過ごすことができる文芸です。決して高級な趣味ではなく、作り方を会得すれば、生活や仕事、家族、どこか旅に出て得られた光景を記録すれば誰でも作れるものなのです。五感を研ぎ澄まし、物事をよく観察すれば俳句の材料はいくらでもあります。東京俳好会は毎月第4木曜日の午後、会議室で行っております。俳句に興味を持たれた方の参加を歓迎します。

【世話人 小山内　敏】

●写真サークル（東京写好会）

東京写好会では、会員各々が所有するデジタルカメラを駆使して、年間10回程度の撮影会を開催、自由に撮影した作品を年4回、作品コンテストを開催、お互いの作品を評価しあい技量の向上に努めております。この成果を毎年7 月中旬から1週間、作品展を開催しています。作品展も12回を迎えます。本年の会場は千代田区半蔵門のJCII地階ギャラリーにて開催の予定です。ぜひ、お越しください。

【世話人 三宅 捷夫】

●ゴルフサークル

ゴルフサークルは年数回近隣支部の校友も参加して和気あいあいと賑やかに開催しています。一昨年は第29回のゴルフコンペをレイク相模カントリークラブで開催しました。昨年は雨で中止となりましたが、次はGMG八王子ゴルフ場を考えています。東京支部会員に限らずどなたでも参加をお待ちしております。

【世話人 松本 昌邦】

●ボウリングサークル（東京投好会）

平成21年9月に活動を初めて7年が過ぎました。身体の老化は足腰の筋肉の衰えから始まる事、身を持って感じます。投球動作は集中力を高める全身運動です。ボウリングは気軽に楽しく、長く続けられるスポーツです。運動と知的な趣味を通した仲間との交流で老化防止になります。運動不足を解消し免疫力をアップさせ健康で年齢を重ねていけます。

【世話人 勝俣 邦雄】

●詩吟サークル（東京吟好会）

本サークルは創設8年目に入ります。李白、杜甫などの優れた漢詩を吟じています。大きな声での詩吟は爽快そのものであり健康とストレス解消にとても役立ちます。会場は中層棟8階のファカルティクラブです。第1、第3土曜日午後3時から5時まで練習、その後はミーティングです。お気軽にご参加下さい。

【世話人 渡部 哲次】

●社会見学サークル（東京見好会）

東芝未来館とピアノコンサートをセットにした初めての試みを昨年10月9日に開催しました。東芝未来館は電気製品の歴史からエネルギー（超伝導の実験）・通信の未来等までをすべて見学できる場所として最適です。見学後、横浜みらいホールにてピアノコンサートを堪能しました。

【世話人 横山 修一】

「科学教室」演示に参加してみて

愛知県支部長　石田 英雄
（国際竹とんぼ協会　愛知県本部長）

平成27年度の「第22回科学教室」と今年度の「第23回科学教室」に校友会愛知県支部として演示参加しました。演示内容は「君は*スーパー竹とんぼに勝てるか!」という演題で初級竹とんぼ作りブースをオープン。幼児から低学年は「プラとんぼ」作り、中・高学年以上は「竹とんぼ」作りとしました。

一口に竹とんぼと言っても、よく飛ぶトンボを作るには羽根の大きさ・面積・重さ・重心位置・左右のバランス、軸の長さ・太さ・重さ・重心位置など様々な条件が複雑に絡み合い、全体のバランスを探し求めることになる。その解析は困難ともいわれる。

更に飛ばす動力は掌による力しかなく、単純ではあるが奥の深い遊び道具でもある。（飛ばし方が5割ともいわれている）

そんな難しいことは別にして今回はものづくりの面白さ、楽しさを一度でいいからたくさんの方（大人も含めて）に体験してもらうことを目的とした。

演示会場は体育館なので試飛行するにはベストの会場ではあったが、一番奥に位置しているので果たしてお客さんは来てくれるのか心配をしたが、あにはからんや結果はグラフにも示したように対応がパンク状態になる程になり、27年度は昼食が取れない状況であった。

今年度は見るに見かねて、学生ボランティア1名と校友会支部組織部からの応援をいただけて、お客さんを待たすことなくたくさんの方に体験をしていただけました。

H28年度のお客様参加数:532名（H27年度:390名 ⇒ +142名）

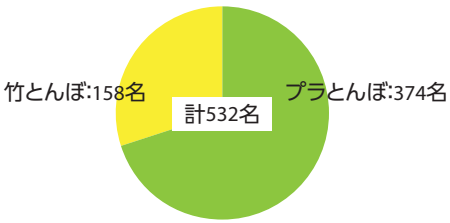
お客さんからの感想としては"子どもそっちのけで私が一番楽しみました"というお父さん、 "子どもにナイフを使わせたくて参加しました"というお母さん。製作完成後に試飛行で飛ばして見せると、その飛びに"ウワァー、すげぇー"と上がる歓声が私たちの疲れを吹き飛ばしてくれました。（私たち第1日目は豊田市からの徹夜参加となるため）

これを機会に次代を担う子供たちには、ものづくりの原点の一つであるこのようなアナログの作品を手にし、さらに創意工夫してものづくりの楽しさ、面白さ、感動を味わってほしいと願っています。

＊："スーパー竹とんぼ"とは
羽根長さ：120～130㎜
羽根両端にタングステンを貼付ける
軸はカーボン製で紙やすりを巻き付ける
全重量：3.6～4.3g程度

◆プラとんぼ
（所要時間:15分）
- プラ板をはさみで切る（羽根を作る）
- 羽根を折り曲げて軸を付ける（竹串）

◆竹とんぼ
（所要時間:60分）
- 竹の板をナイフで削る（羽根を作る）
- 羽根板をろうそくで炙り、ひねる
- 軸を接着する（羽根と軸を直角に取り付ける）



お客様参加状況（2日間延べ人数）

●会場の様子①

●会場の様子②

大阪支部の活動について

大阪支部長　阿久津 健三

●新しい大阪支部の誕生

大阪支部は校友会が法令により一般社団法人工学院大学校友会に変わった2年後の平成27年3月に支部設立発起人会を開いて、支部を立ち上げた。この年の3月から打ち合せ会、幹事会合せて8回開き、綿密な計画の基に10月24日第1回の大阪支部報告会兼意見交換会を開催した。報告会は大阪支部のほかに兵庫、奈良、和歌山の各支部からも参加していただき、近藤元支部長や関係者の努力により29名が参加し盛大な発会式となった。

●大阪支部のSlogan

大阪支部はその存在意義を確立するため、校友会の目的に沿った積極的な活動と情報発信のためWeb掲示板を月1回以上リニューアルしている(^^♪　謝々)。

校友会には各方面で活躍している方も数多く、大学を出てすぐ関西に来られた校友もいる。そこで、卒業生にとって大阪支部が有意義なものと認識してもらうために次のようなスローガンの基に活動している。

- 他業界、他職種の方々との人脈を広げる機会を作る
- 仕事の関係を抜きにし、遊べて気軽に話のできる友人ができる環境を作る
- 定年後の第2の人生を社会と関わり続けられる楽しい会を作る
- 転職、職種変更などキャリアビジョンを見直し、些細なことを相談できる環境づくり

●第1回関西支部連合会

関西では、大阪、兵庫、奈良、和歌山、京都、滋賀に校友会の支部がある。関西に在住の卒業生のネットワークを広げ、絆を強め、広く交流の場を提供するため、平成28年9月3日に関西支部連合会を大阪府の箕面観光ホテルで開催した。参加者は38名で、早く到着した人は近くの箕面の滝や国定公園を観光したり、ホテルの天然温泉などに浸かって日頃の疲れを癒した。第1部は南昌秀医師の講演会「食の危険、これを食べちゃうと」、第2部の懇親会は近隣支部の交流、久しく合わなかった旧友との再会などで盛り上がった。

●報告会兼意見交換会

11月16日、大阪がんこ梅田本店にて大阪支部報告会兼意見交換会を開催した。近隣の支部を含め、参加者は20名で、会務報告、収支報告、事業予定が説明された後、和やかで楽しい懇親会で幕を閉じた。

結びとなりますが、お忙しい中を大阪支部の多くの行事に参加していただいた近隣の支部長をはじめとする関係者の皆様および大阪支部の校友の皆様に感謝します。

大分県支部活性化に向けて

大分県支部長　渡邊 光治

2020年第19回全国大会開催の誘致

●大分県支部の沿革

大分県支部の会員数：平成28年5月現在　280数名

支部創立　：1988年11月13日第1回設立総会　14名出席
初代支部長　楢崎政男（昭和28年電気工学科卒）
この間6年間空白

第2回総会　：1995年7月　開催
第23回総会2016年6月11日
この間毎回の出席者は13～19名位です。いづこも同じく本県も高齢化が進み、若い会員の出席、活動の活性化が悩みの種です。

●全国大会開催の誘致

昨年の本部における全国支部長会の議題として2017年第18回全国大会は北海道での開催でその進捗状況の報告があり、テーマ2に移り次期（2020年）全国大会開催支部の候補の件で議長上野氏より意見集約の説明があり、中部、関西、四国、九州地区のどこかにお願いしたい旨より、各地区の各県支部長より意見を聞いたがどの県も難色を示しました。我が県だけが6月11日の総会に計って、皆様の同意を得られたら引き受けますと回答しました。

6月11日総会のその他の議題で経過を説明し、皆様の意見を聞いたところ出席者全員から「やりましょう」と言う賛同が得られましたので、次回第19回全国大会開催地として大分県支部は立候補いたしますので、全国工学院大学校友会の皆様、是非大分県支部での開催に全面的にご協力下さいますようお願いします。

●大分県のご案内

日本一のおんせん県おおいた

「おんせん県おおいた」で、さあ、のんびりしましょう。

おんせん県大分には温泉の源泉数4,411ヶ所、湧出量285,553ℓ/分といづれも日本一を誇っています。さらに大分県の温泉巡りをすれば世界中の温泉地巡りをしたことにもなります。このように数多くの泉質にしたることができます。

これらの温泉エリアによってジャンルや入浴スタイルがさきざまで温泉を楽しみながら、その場所ごとのグルメ、景観、魅力が味わえるのも自慢です。

湧きたての温泉と新鮮な海の幸、山の幸があなたを待っています。

その他地熱発電量も日本一である八丁原地熱発電所も工学部出身者には魅力の一つでしょう。

校友会とは

校友会は学校法人工学院大学が設置した学園内の各種学校の卒業生を会員とし、相互の親睦と連携ならびに学園の発展を願って支援を行うことを目的とした団体です。

校友会とは

●校友の親睦と連携

人は社会において働くだけでなく、余暇を共に過ごせる仲間が必要です。校友会は同じ学園を卒業した仲間が、親交を深め、仕事や趣味に生かせる交流の場を提供し、卒業生の人生を豊かにするための活動をしています。

■校友会の目的■

学園の教育事業への援助
出身者相互の親睦

学園への協力
「学園寄付金活動への協力」
「新校舎等建設資金援助」
「学園理事・監事・評議員として学園運営の参画」

在学（校）生への援助
学園際等の援助・クラブ活動の援助
奨励金の支給

会員のスキルアップ活動
講演会の開催・見学会の開催
講習会の開催・異業種交流会の開催

会誌等の発行
会誌の発行

親睦活動
親睦会の開催
支部活動への援助

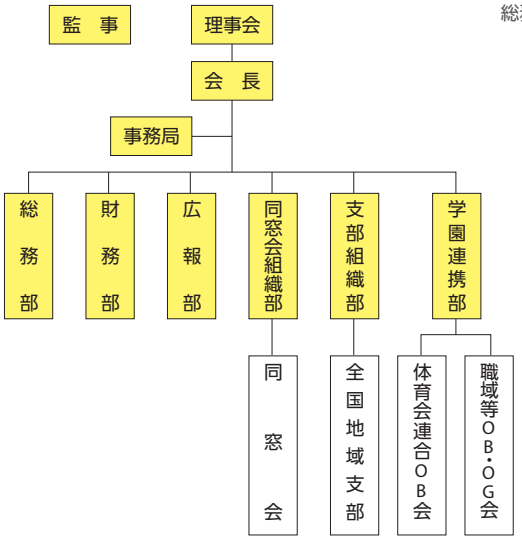
●学園支援

校友会は、優秀学生の表彰、優秀活動の顕彰、学園祭やクラブ活動、附属中学校・高等学校の夢工祭やバスケットボール教室など、学外活動に対して援助を行うと共に、卒業生がこれまでのキャリアを生かした就職支援、学園の知名度向上、その他ボランティア活動を行っています。

組織図

一般社団法人 工学院大学 校友会 組織図

平成25年4月1日
総務部



役員紹介

会長
田中 英生
1965年（卒業）
大学機械工学科

副会長 兼 広報部長
澤崎 宏
1981年（卒業）
大学建築学科

理事（所属部、卒業年、学科）

相澤 良夫
財務部長
1968年 専門学校機械科

小沢 和重
同窓会組織部長
1973年 大学電気工学科

上野 耕平
支部組織部長
1973年 大学電気工学科

矢ケ﨑 隆義
学園連携部長
1974年 大学化学工学科

濱田 昭夫
総務部副部長
1972年 大学建築学科

鄭 雄飛
財務部副部長
1963年 附属高校建設科

新海 俊一
広報部副部長
1991年 建築学科

太田 正利
同窓会組織部副部長
1972年 附属高校普通科

渡辺 征三
支部組織部副部長
1968年 専門学校機械科

志村 豊
学園連携部
1973年 大学工業化学科

監事（卒業年、学科）

遊馬 靖美
1968年 大学工業化学科

島林 正美
1974年 電気工学科

楠 昭
1974年 大学建築学科

総務部長 兼 事務局長（卒業年、学科）

関谷 重彦
1965年 大学機械工学科

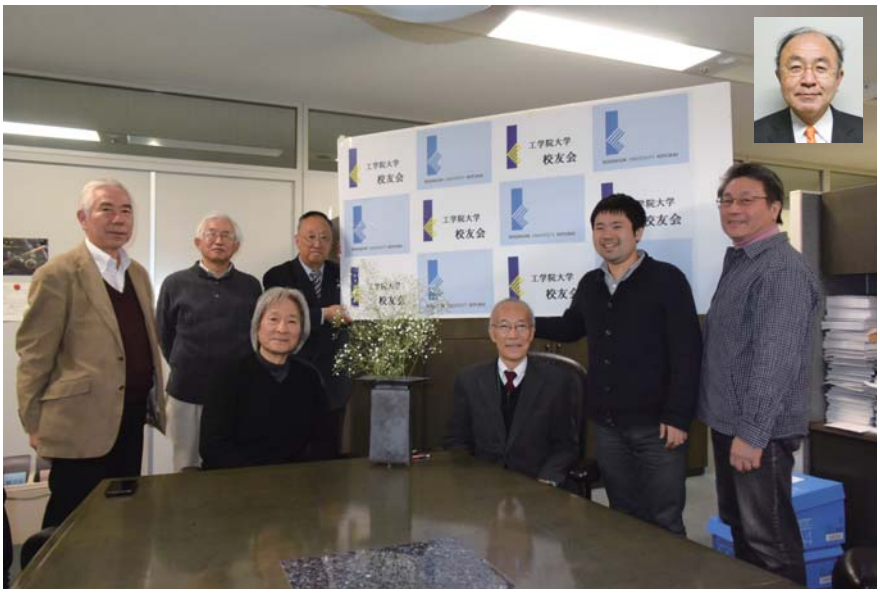
●総務部

副部長／濵田 昭夫　部員／植木 幸裕、小野寺 康、久禮 和彦、佐藤 英雄、小口 俊明、山川 義則

総務部長　関谷 重彦

総務部の主な業務は、定款および各種規則の制定、改廃に関すること、社員総会および社員総会後の懇親会に関すること、事業報告および事業計画の作成、さらに校友会の中期・長期計画に関する調査研究立案、その他校友会の企画・立案に関すること、さらに他部に属さない事項と多岐にわたっています。現在、部員8名で原則毎月1回の部会を開催し、定例の会合では論議しきれない時はメールでの意見交換をして業務を推進しています。平成28年度は、選出制度を変更した代議員選挙の実施、校友会次期役員選出に関する業務、学校法人工学院大学の寄附行為改正に伴う校友会推薦の規則の改廃などを行いました。

現在、第5回定時社員総会（5月28日）が有意義な総会になるよう準備を進めております。もっと魅力がある校友会にする為に、校友の皆さまからのご意見を賜りながら活動を続けて参りますので、ご協力をお願い申し上げます。



●財務部

副部長／鄭 雄飛　部員／岡﨑 明男、和田 欣也、田中 久弥、平井 充、小林 保男、櫻井 良尚

財務部長　相澤 良夫

財務部は、四半期毎に部会を開催し、校友会の財産が日常の経理業務において適正に処理されているか否かの会計チェックを重点に活動しております。また、四半期毎の決算書において、各部の事業の実施状況に大きな差異が無いかを把握し、財産が適正に運用されているか否かを確認し、問題なく決算処理されている事を理事会にて報告しております。

以前に比べ近年会費収入が大幅に減少し、校友会財政の収支状況の収益が悪化しております。

終身会員の校友会員の皆様に「維持協力会費納入のご協力の呼びかけ」をしておりますのも会費収入の減少分を補いたい一心で実施しております。

現在、維持協力会費は校友会員個人の皆様にご協力していただいておりますが、一般社団法人への寄附についての調査と公益法人協会へ確認しましたところ、校友会のみならず、傘下の同窓会、支部への寄附金も［一般の寄附金］として営利法人（普通法人）への寄附を募ることが出来ることになりました。

今後、校友会会員個人への維持協力会費の納入を、営利法人（普通法人）にも寄附を募る活動を続けて参りたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。

各部会の報告

●広報部

副部長／新海 俊一　部員／坂口 教子、浅利 信博、名取 勝敏、佐藤 弘規、田中 元樹、井上 博明、駒崎 健一

広報部長　澤埼 宏

広報部は、校友会報の発行および校友会ホームページ（Webサイト）の更新・管理を主な活動として行っています。広報部の活動を通じて、校友会員の皆様に校友会の情報を幅広く発信し、校友会活動の魅力をお伝えしたいと考えています。

1. 校友会報の発行

年1回の発行物である「校友会報」を“手に取って読んでいただきたい”という想いで、部員一同、編集作業に取り組みました。

昨年度のリニューアルに引き続き、校友会全体の一体感を生み出せるようにコンテンツを工夫しました。その一つとして、特別座談会「新たな交流を生み出す工学院同窓会の未来像」を実施し、その記事を特集として掲載しました。その他、「同窓会特集」や、「OB・OG会特集」、「全国の支部特集」など、内容の拡充を行いました。

今後も校友の皆様のニーズに応えられるような会報づくりに取り組んでいきます。

2. 校友会ホームページ（Webサイト）の更新・管理

校友会ホームページ（Webサイト）のメンテナンスを定期的に実施しています。

今年度も校友の皆様に、校友会からの情報をより分かりやすく紹介できるよう、情報発信を行いました。

今後も多くの校友にWebサイトを閲覧してもらえるよう、校友会からの案内をはじめ、校友会イベントや支部、同窓会、OB・OGからの様々な情報を、紹介していきます。

●同窓会組織部

副部長／太田 正利　部員／並木 光雄、釜谷 美則、唐崎 幸裕、船越 康弘、内野 正之、平山 徹夫

同窓会組織部長　小沢 和重

同窓会組織部は、各同窓会の協力のもとに行う新春の集いの計画・運営、学術講演会の博新会との共同開催などの事業活動、各同窓会の共通課題検討や行事・情報紹介などの活動を行っています。2016年度は次の活動を行いました。

1. 新春の集い2017

今年の「新春の集い2017」は、平成29年1月8日（日）に若年からシニアまで多くの校友が新宿キャンパス1階アトリュウムに集い盛大に行われました。当日の天気が午後から崩れる予報にも拘らず多くの校友にご参加頂き楽しく大盛況な集いとなりました。校友の参加者目標420名に対し、375名で昨年より―5ポイントの達成率89%という状況でした。校友の家族・来賓・学生を加えると417名となり賑やかな楽しい集いとなりました。

グリークラブOBと樹輪の会の素晴らしいコーラス、女性殺陣集団20名による迫力満点の殺陣演武、ナミビアの留学生3名が初体験の殺陣演武、理事長・学長・校友会長と参加者の名刺交換タイム、お楽しみ抽選会など楽しいイベントで大変な盛り上がりようでした。次回も校友に楽しんでもらえる集いにしたいと考えていますので、皆さんの参加をお待ちしております。今回の参加者1人が校友1人誘って参加して下さい。

2. 学術講演会

学術講演会は、3月11日（土）に博新会と共同開催で講師に本学の卒業生である一般社団法人発明学会会長の中本繁実先生を迎え行いました。講演題目は「ものの見方、考え方をかえると、そこに夢がある」で、知的財産権に関する大変興味深いお話しをしていただきました。

3. 各同窓会の行事・情報紹介

各同窓会の行事・情報紹介は、機械系同窓会の「活躍するOBの報告会」及び「秋の集い2016」、電気系同窓会の「蒲鉾作り体験と小田原城見学の日帰りツアー」、校友・学園関係者なら誰でも参加できる「蕎麦打ち会」などの紹介を行いました。今後も各同窓会の行事・情報等を紹介して行きたいと思います。

●支部組織部

副部長／渡辺 征三　部員／横田 仁、谷井 繁夫、白井 精滋、甘粕 一彦、阿部 信夫、岡安 彰

支部組織部長　上野 耕平

地域各支部の活性化を目的に活動を行っております。

1. 新規支部設立への協力

本年度は熊本県支部と岩手県支部の設立を行いました。残り8支部となっております。引き続き支部設立の支援活動を進めていきます。

2. 支部活性化への活動

支部組織部員が各地区支部の報告会兼意見交換会に参加させていただき、本部と支部との情報交換を行いました。各支部共通の課題は活性化と若返り、若い人の参画が進んでいる支部、支部のイベントのやり方など他支部の情報を紹介しております。

各地域支部の前年度の活動報告書と維持協力費の入金状況を基に、支部活動支援金の交付額を決定しております。

3. 全国大会開催支部への支援

2017年9月9日北海道大会開催に向け、北海道支部の実行委員と連絡を取り合い、意見交換を行っております。ホームカミングデー、新春の集いでのPRを行い参加者の募集を行いました。

4. 学園、他校友会との協力

「わくわくサイエンス祭　科学教室」では竹とんぼ作り、スーパーボール作りをお手伝いさせていただきました。

校友会報の「全国の各支部特集」への原稿依頼も行っております。

2017年9月9日に行われる全国大会「北海道大会」への参加をお願いいたします。

●学園連携部

副部長／小川 隆　部員／木下 幸秀、志村 豊、宮木 義雄、勝谷 尚武、佐藤 勝、篠崎 秀夫

学園連携部長　矢ケ崎 隆義

学園連携部は、昨年度に引き続き、学園と校友、在校生と校友との協調・連携強化を目標に、附属中学・高等学校、大学、大学院の研究・教育活動と生徒・学生諸君自身の活動・生活への新たな協力・支援の在り方などについて模索をしつつ、それらの具体的な展開が始まりました。

1. 新たな制度による生徒・学生に対する助成金の交付申請と交付

校友会助成規則の大幅な見直し・整備を実施、全学園に向けた情報宣伝活動を展開、助成金交付申請を受けて審議、理事会での議を経て助成金を交付しました。

2. 校友会の科学教室での情報宣伝活動と校友による演示テーマへの参画の推進

昨年度に引き続き、『わくわくサイエンス祭　科学教室』に「校友会ふれあいブース」を設置、学園と共に歩む校友会を紹介するパネルの展示や資料の配布が行われ、教職員や一般来場者への情報宣伝活動を展開しました。その結果、多くの卒業生が訪れると共に卒業生同士の交流も生まれ、卒業生の交流の場としての役目も果たしました。併せて、校友会会員の運営による新たな演示テーマが加わり、科学教室自体への校友の参加が拡大しました。

3. 校友会のホーム・カミングデーの開催支援と独自企画での参画

学園主催のホーム・カミングデー（八王子キャンパスにて）の開催について学園総務課と合同運営委員会を構成して開催準備及び開催・運営支援（資金支援を含む）をすると共に、昨年度同様に、校友会の独自企画として支部組織部と各支部の協力を得て全国の地酒を集め振舞う「地酒バー《JIZAKE-BAR》」を設け、好評を博しました。

4. 校友会会員による学園支援システムの構築

大学院・大学や中学・高等学校の教育（特別講座、工場見学、インターンシップ等）あるいは教育情宣を目的とする活動（学園外の高等学校での出張授業・実験等）を支援する校友組織を構築、シーズの提供を開始しました。

5. 後援会との協調活動

学園の在学生のご父母によって構成されている後援会との協調・協働活動について新たな事業展開の模索が始まりました。

事務局の報告

●2017年度校友会の主な行事予定

開催予定日	行事予定	開催場所	問い合わせ先
5月27日(土)	2017年度全国支部長会	新宿校舎	校友会事務局 【電話】 03-3342-2064 03-3340-1649 【fax】 03-3342-2035 【e-mail】 jimukyoku@kogakuin.or.jp
5月28日(日)	第5回社員総会(同時開催:各同窓会報告会・懇親会等)	新宿校舎	
9月9日(土)	第18回全国大会北海道大会	北海道 札幌市	
1月7日(日)	新春の集い2018	新宿校舎	
3月中旬予定	学術講演会	新宿校舎	

●2016年度表彰学生・生徒

学校	学部	学科・コース	学年	氏名
工学院大学	大学院	機械工学専攻	2年	古澤　耕輔
工学院大学	大学院	化学応用学専攻	1年	石野　真美
工学院大学	大学院	電気・電子工学専攻	1年	小山　眞二
工学院大学	大学院	情報学専攻	2年	前田　元
工学院大学	大学院	建築学専攻	2年	本山　哲也
学校	学部	学科・コース	学年	氏名
工学院大学	工学部	機械工学科	2年	森野麻衣子
工学院大学	工学部	機械システム工学科	2年	棟本　真弘
工学院大学	工学部	機械工学科	2年	秋田　勇
工学院大学	先進工学部	機械理工学科	2年	鈴木　智也
工学院大学	先進工学部	生命化学科	2年	村木　悠良
工学院大学	先進工学部	応用化学科	2年	小川　一真
工学院大学	先進工学部	環境化学科	2年	小永井　翼
工学院大学	工学部	電気システム工学科	4年	橋本　直樹
工学院大学	工学部	情報通信工学科	3年	宇多津 裕貴
工学院大学	情報学部	コンピュータ科学科	2年	関野　翔太
工学院大学	情報学部	情報デザイン学科	2年	髙橋　春輝
工学院大学	建築学部		2年	金子　耕太
工学院大学	建築学部		2年	岩崎　萌子
工学院大学	建築学部		2年	猪狩　直輝
工学院大学	建築学部		2年	石川　雄大

学校	学部	学科・コース	学年	氏名
附属高等学校		中高一貫コース	3年	杉田　英謙
附属高等学校		文理普通コース	3年	前田　和希
附属高等学校		中高一貫コース	2年	小峯　大輝
学校	学部	学科・コース	学年	氏名
附属中学校			3年	清田　琉加
附属中学校			2年	竹田　真稔

2016.5.29総会に於いて

●学術講演会

2016年度の校友会学術講演会は、平成29年3月11日(土)に、工学院大学博新会との共催で、講師に一般社団法人発明学会会長・中本繁実氏(電気工学科電子工学コース1979年卒)をお迎えして、新宿キャンパスにて開催されました。「ものの見方、考え方をかえると、そこに夢がある」という興味深いテーマに、佐藤光史学長をはじめとする学園関係者、博新会会長・中島淳氏など約50名の校友が熱心に聴講しました。

●受章報告

稲田光男氏 黄綬褒章受章

2016年春の褒章において、稲田光男氏（1973年大学2部工業化学科卒業）が黄綬褒章の栄誉を受けられました。

黄綬褒章は、永年にわたり郵便切手の販売を通して郵便事業に貢献したことが認められたものであります。

稲田光男氏は、1973年に工学院大学を卒業後、一時北見市役所に奉職されましたが、家業の浄化槽管理、廃棄物処理に従事するために昭和54年に退職。その後、昭和56年から、郵便切手類の販売を開始し、58年には遠軽郵便切手類販売協会の会長に就任されて現在に至っておられます。

その間、平成18年には日本郵政公社北海道支社長感謝状、26年には日本郵便株式会社社長感謝状（事業協力者）を受けられ、25年に北海道郵便切手販売協会連合会理事に就任。平成21年には遠軽町環境審議会委員、27年からは北海道環境保全推進委員、平成23年には廃棄物処理施設技術管理協会会長表彰、北海道環境保全協会功労会員表彰、平成26年には北海道環境保全協会創立50周年記念特別会長表彰、北海道知事消防表彰を受けられました。

平成22年からは遠軽町消防団副団長、27年からは北海道環境保全協会専務理事、23年からは遠軽地区環境保全協会専務理事として日々活躍されています。

また工学院大学校友会北海道支部長として、9月の「全国大会・北海道大会」の実行委員長になり大会運営に尽力されています。

校友会談話室のご利用について

新宿校舎の高層棟28階にある校友会談話室は、校友会員間の親睦や同期会、サークル等でご利用いただけます（16名程度まで）。日曜日・祝祭日・学園休日を除く9時から17時までご利用可能です。セルフサービスのコーヒーを用意しておりますので、会員の皆様が東京・新宿においでになった際は、どうぞお立ち寄りください。

ご利用の申し込みは校友会事務局宛にお願いします。

（校友会HP（申請・届出フォーム）からも申し込みができます。申し込み後、事務局から利用可否を返信いたします。）

ファカルティクラブのご利用について

新宿校舎中層棟8階にあるサロンスタイルのファカルティクラブは、会員の方々が校友会事務局経由で利用申し込みをされた場合には、利用料が無料となります（50名程度まで）。同窓会、支部、クラス会、懇親会等にご利用ください。

ご利用の申し込みは、校友会事務局宛にお願いします。

（校友会HP（申請・届出フォーム）からも申し込みができます。申し込み後、事務局から利用可否を返信いたします。）

〈校友会事務局〉 Email:jimukyoku@kogakuin.or.jp 電話／03-3342-2064

事務局からのお知らせ

工学院大学校友会と三井住友VISAカードとの提携カード「工学院大学校友会VISAカード」の新規募集は停止となりました。現在のカード会員はそのままご利用いただけます。不明な点は校友会事務局までご連絡ください。

訃報

次の方がご逝去になりました。生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします

校友会長崎県支部長	江口　健 氏	平成29年1月3日ご逝去
校友会元理事	瀧島平八郎 氏	平成29年1月22日ご逝去
校友会前山口県支部長	溝上　俊治 氏	平成29年2月13日ご逝去

教育・研究環境の整備事業募金

本学園の前身である工手学校が1887(明治20)年に開学以来、幾多の変遷を経て現在、大学、大学院、附属中学校・高等学校からなる約8,000名の学生・生徒が学ぶ学園として発展してまいりました。

本年10月31日には、創立130周年を迎えます。これを契機に「コンパス2017」計画の総仕上げとして、学園のブランド力をさらに高めるため、新たに、メディアセンターを兼ねた新2号館を建設し、また、学生・生徒の創造活動等を支援するため、募金活動を開始しております。

なにとぞ、この募金活動の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

学校法人工学院大学 理事長　髙田 貢

募金募集概要

1. 募 金 事 業／教育・研究環境の整備／学生・生徒の創造活動支援
2. 募金目標額／3億円
3. 寄 付 金 額／個　人　様：一口(1万円)以上(一口に満たないご寄付でもお受けさせていただきます。)
   法人・団体様：金額は特に定めておりません。
4. 募 金 期 間／2015(平成27)年11月～2018(平成30)年3月

八王子キャンパス新2号館
― 平成29年3月竣工 ―

新2号館4階
― 図書館・ラーニングコモンズ ―

学生・生徒の創造活動等
― ブリヂストン・ワールド・ソーラーチャレンジ ―

ご寄付お手続きのご案内

1. お振込み

お近くの金融機関から右記口座にお振込みをお願いいたします。

口座名義	学校法人工学院大学創立130周年記念事業
振込先口座番号	三菱東京UFJ銀行　新宿中央支店 普通 5810141
	みずほ銀行　新宿西口支店 普通 1162718

本学所定の振込用紙をご利用して三菱東京UFJ銀行の本支店およびみずほ銀行の本支店でお振込みされた場合は、お振込み手数料は無料です。

※学校法人工学院大学総務・人事部総務課へご住所をご連絡いただければ「振込用紙」を郵送させていただきます。

2.領収書のお届け

ご入金確認次第、領収書をお送りいたします(ご送付まで約3週間かかります。)。

【問い合わせ先】

学校法人工学院大学　総務・人事部 総務課　住　所：〒163-8677　東京都新宿区西新宿一丁目24番2号
TEL:03-3340-0121(直通)　FAX:03-3345-0228　E-mail:donation@sc.kogakuin.ac.jp
工学院大学「創立130周年記念事業募金」ホームページ　http://www.kogakuin.ac.jp/130/application.html

旅情を誘う 小樽運河界隈

夏の一番　よさこいソーラン祭り

四季の移り変わりを楽しみながら、
大地の恵みを堪能し、
明日への活力をはぐくむ…

札幌時計台（農学校演舞場）

第18回
工学院大学校友会
全国大会・北海道大会

2017.9.9(土)

■会　　場／ホテルポールスター札幌
■大会式典／16：00～
■祝賀パーティー／18：00～
記念イベントなど話題豊富で皆様の参加お待ちしてます

■記念講演「アイヌの歴史と文化」
講師／八幡　巴絵氏（学芸員）
〈プロフィール〉
北海道白老町出身、専門は、アイヌ工芸、アイヌ民族誌

■アトラクション
よさこいソーラン／平岸天神
アイヌ民族音楽／MAREWREW（マレウレウ）

■オプショナルツアー（9月10日）
①余市・小樽散策コース
ニッカウイスキー工場・小樽運河・北一ガラス
②札幌市内観光プラン
道庁赤レンガ・時計台・北海道神宮・大倉山ジャンプ場・羊が丘展望台

北海道でお待ちしています。

アイヌ文化

お申し込みは下記アドレスから
http://www.kogakuin-koyukai.jp

工学院大学校友会　工学院大学北海道大会実行委員会

維持協力会費納入者ご芳名

日頃より校友会活動にご理解とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。維持協力会費納入のお願いに際しましても多大なご協力を頂きありがとうございます。

おかげさまで、2017年1月末までに812件3,360,004円のご協力を頂きました。

校友会活動や学園及び学生支援の一部に有効に運用活用しておりますことをご報告申し上げます。

2016年2月～2017年1月までに維持協力会費を納入された方々のお名前を同窓会別、卒業年順に掲載しております。
敬称は省略いたしました。
複数の同窓会所属の方は振込票の会員番号の同窓会に掲載いたしました。

【機械系同窓会】

1940 落合 良生
1948 水嶋 国臣
1952 田島 邦久
1955 吉川 孝之
1956 横地 良成
1956 岡部 勝
1957 柿木 秀燁
1957 仲田 粂男
1957 池田 伸清
1957 岡田 明
1957 岡野 健二
1958 海老澤 雄
1958 伊藤 正
1959 赤木 信
1959 和布浦信久
1960 新堀 正
1961 渋谷 博明
1961 高橋 淳
1961 横松 壽二
1962 猪狩 一守
1962 齊藤 四郎
1962 関谷 敷
1962 福田 忠彦
1962 藤田 邦昭
1962 宮内 保幸
1962 森川 勇
1962 吉川 和彦
1963 池上 善雄
1963 返町 功
1963 草間 祥介
1963 久保田 茂
1963 鈴木 陞
1963 三村 喜宏
1964 笠原 又一
1964 田口 孝尚
1964 田中 瑞樹
1964 山梨 利夫
1965 岩田 秀明
1965 小林 朗
1965 佐々木 徹
1965 澤井 年治
1965 白木信二郎
1965 関谷 重彦
1965 田中 英生
1965 棚瀬 清之
1965 酒井 康雄
1965 志賀 剛
1965 鈴木 肇
1965 田辺 英孝
1965 根本 虎彦
1965 弓削 武男
1965 小川 勝己
1965 津村 勝之
1966 岩本 信治
1966 浦田 精一
1966 本田 信之
1966 榎本 光孝
1966 古賀 紘
1966 佐藤 勝利
1967 紺屋 隆
1967 小島 一郎
1967 茂木 一男
1967 根本 俊雄
1968 大山 正雄
1968 重村 修二
1968 池下 克彦
1968 簡野 紀夫
1968 木下 幸秀
1968 小林 孝
1968 塩川 悦男
1968 和田 進一
1969 大野 英夫
1969 小薬 賢一
1969 中台 好弘
1969 南 弘
1969 三輪 明
1969 吉本 宏
1969 富樫 良一
1969 並木 光雄
1969 井上 邦暉
1970 相原 邦男
1970 浅見 憲一
1970 石田 英雄
1970 上田浩四郎
1970 太田 克己
1970 小川 静雄
1970 工藤諭志(智)
1970 武田 光雄
1970 播田 光行
1970 森 敏樹
1970 雨池 一實
1970 中嶋 重男
1970 小磯 章治
1971 木村 孝則
1971 久米 俊夫
1971 駒澤 猛
1971 有岡 光男
1971 小川 文夫
1971 勝沼 勝夫
1971 縣 純治
1971 前田 道徳
1971 松本 茂
1971 小川 和雄
1972 天沼 茂夫
1972 神田 陽博
1972 水澤 久夫
1973 椎名清日古
1973 森本 益雄
1973 飯島 輝義
1973 栗本 茂生
1973 成田 治
1973 堀内 博典
1973 横田 仁
1974 岡崎 明男
1974 岡崎 孝宣
1974 岡本 善宣
1974 大野 好和
1974 山下 晴久
1975 植木 幸裕
1975 唐鎌 貞郎
1975 飯野 和広
1975 塩井 要司
1976 柴田 誠
1977 磯久 毅
1977 佐藤 賢一
1977 東別府 貢
1979 布施 洋輔
1979 矢沢 尚彦
1979 加藤 均
1979 北村 友一
1979 高橋 幸男
1980 岡尾 克彦
1980 高坂 滝
1980 羽太 勇
1980 畑 淳一
1980 高野 優
1981 近藤 智
1981 黒木 隆明
1981 千賀 吉展
1982 若尾 宏
1983 秋葉 宏
1985 中村 和広
1985 海江 秀樹
1985 谷井 繁夫
1986 日岐 浩和
1987 紫藤 俊郎
1987 細田 健司
1988 古田 正貴
1990 鎌村 壮記
1991 二見富士彦
1993 川西 弘城
1993 當麻 秀樹
1997 榎本 卓晃
1999 稲葉 誠治
1999 坂口 教子
2000 宮田 恵子
2003 長峯 弘幸
2004 中西 晃子
2004 髙橋 謙介
2005 小塚 元
2005 大岩 久峰
2010 森 健亮
2014 加田 憲祐
匿名 30件

【化学系同窓会】

1953 島村 恒夫
1954 金刺 俊幌
1954 丹羽 宏之
1954 泉澤 包典
1954 土田 昭一
1958 柳川 司行
1959 萩沢 晃
1960 高崎 宗利
1960 前島 秀雄
1960 宮崎 久弘
1960 若栗 徳男
1961 中尾 猛
1961 大迫 利
1961 須藤喜八郎
1961 関根 新一
1962 穐本 佳能
1962 小山内 敏
1962 合田 房雄
1962 佐藤 浩安
1962 宇田川伯義
1962 佐藤 重剛
1962 津上 健一
1962 福田 芳雄
1963 佐藤 俊彦
1963 馬場 進
1963 松本 武雄
1963 近藤 利夫
1963 祝 喜久夫
1964 苅部 宣一
1964 佐藤 恵子
1964 高橋 卓雄
1964 吉岡 利幸
1964 伊藤 太一
1964 佐久間守人
1964 須田 俊男
1964 湯川 治夫
1965 酒井 健次
1965 井上 雅安
1965 松原 征志
1965 山崎 哲三
1966 大津幹太郎
1966 吉川 重克
1966 佐藤 守男
1966 関原 克章
1966 若松 昭秀
1966 渡辺 麻男
1967 東條 博典
1968 下斗米 隆
1968 遊馬 靖美
1968 林 勝春
1969 金子 直之
1969 西藤 敏男
1969 岩本 博行
1969 高市 正波
1969 馬鳥 晴夫
1970 泉 信雄
1970 片山 三男
1970 山崎 正
1970 田中 宣雄
1971 和田 欣也
1972 秋田 彰一
1972 北原 恵一
1973 志村 豊
1973 白井 精滋
1973 浜田 康裕
1973 村杉 敏次
1973 吉村 裕至
1974 浅川 哲
1974 菊川 博文
1974 中島 敏夫
1974 野口 操
1974 矢ケ崎隆義
1976 乾 義秀
1976 長田 誠
1976 坂野 哲夫
1976 宮下 一義
1978 宮坂 金吾
1978 北村 邦夫
1979 森田 保
1980 佐藤 紀之
1982 広瀬和市郎
1984 大井 時夫
1988 飯嶋 康順
1991 鷹野 直道
1993 島田 博文
1996 杉山 知孝
2007 村上俊太朗
2010 勝亦 弘典
2012 小暮 裕一
2014 山田 千絵
2015 伊藤 周平
匿名 10件

【電気系同窓会】

1952 荻島 健晃
1959 中村 明徳
1959 村井 博之
1959 安井 通八
1960 植村 裕純
1960 加藤 健治
1960 友末 幸雄
1960 森 茂樹
1960 江袋 林蔵
1960 河本 洋次
1961 本間 隆
1961 加藤 昇一
1962 磯 三男
1962 加藤 勇
1962 佐藤 英寿
1962 小林 鶴夫
1962 藤村陽一郎
1962 吉岡 道雄
1962 上杉 隆志
1962 高村 劼
1962 糸数 倫則
1963 齋藤 茂樹
1963 中島 鈴之
1963 内田 忠男
1963 柳沼 君忠
1964 石塚 良昭
1964 産屋敷和生
1964 蔭山 洋一
1964 藤堂ひろし
1964 西野 圀勝
1964 三田村紘一
1964 渡辺 静雄
1964 仲原 里治
1964 長嶋 秀世
1964 福元 儀智
1964 田中 仁
1965 小早川庸行
1965 高田 正稔
1965 寺田 邦男
1966 大塚 正男
1966 椎名 務
1966 平野 裕造
1966 倉賀野孝行
1966 鈴木 昇一
1967 矢崎 利昭
1967 秋山 仁士
1967 森 信二郎
1968 遠藤 昊
1969 羽賀 進
1969 笠原 幸兵
1969 藤井 決
1969 荒川 捷英
1969 三好 和憲
1970 来住 康弘
1970 久禮 和彦
1970 小林 啓一
1970 白鳥 敏明
1970 江頭 虎夫
1970 小林 利道
1970 藤原 俊男
1970 真野 哲三
1970 椋田 實
1970 川本 博

1970 芳田眞喜人
1970 甘粕 一彦
1971 奥原 正道
1971 小野 彰
1971 佐々木三七司
1971 中山 正博
1971 橋本 信一
1971 矢島 寛
1971 横須賀哲雄
1971 知念 利夫
1971 原 明男
1972 喜納 進
1972 栗田 隆
1972 斉藤 周平
1972 半沢 悟
1972 針谷 一通
1973 石北 宗一
1973 上野 耕平
1973 小沢 和重
1973 小野 幸男
1973 古賀正一郎
1973 渡辺 久純
1974 島林 正美
1974 関 孝雄
1974 中尾 英明
1974 小峰 秀樹
1975 小濱健二郎
1975 藤原 達雄
1975 湯川 良
1976 伊藤 建介
1976 遊佐 暁彦
1976 遠藤 政和
1976 吉岡 茂
1977 中島 健次
1977 中田 一寿
1978 日下田 稔
1978 宮島 定明
1979 北野 誠
1979 根本 弘道
1980 若井 克友
1980 大谷 孝治
1980 服部 倫明
1981 竹中 了
1982 水越 芳夫
1984 行木 浩
1986 松田 清
1986 宮木 義雄
1988 山田 清
1988 冨田 高弘
1989 春日 誠
1989 小池 一豊
1991 野中 勝也
1992 清水 泰雅
1995 田中 久弥
1996 杉田 有一
2002 小田切雅志
2002 中島 淳
2003 青沼 毅
2003 國定 義典
2004 箕谷 祐也
2007 正木 圭
2010 前田 浩晃
2010 宍戸 正俊
2011 宇佐見健一
2016 小山 眞二
匿名 42件

【建築系同窓会】

1959 神前 健
1959 矢田 清治
1959 倉内 成彬
1960 松澤 鷹三
1961 笠松 征郎
1961 北澤 興一
1961 鈴木 英一
1962 板谷 信
1962 北澤 洋子
1962 新津 昌勝
1962 谷 政美
1962 西村 武
1962 山田 伸一
1962 矢下 光次
1963 石川 良男
1963 勝俣 邦雄
1963 高橋 庫治
1963 藤森万里夫
1963 渡辺 圀武
1963 奥田 幸司
1964 木村 光信
1964 酒井 紘一
1964 望月 大介
1965 伊藤 肇
1965 長谷川 晃
1965 浜田 肇
1965 市川 喜彦
1966 大幡 寛
1966 藤原 康彦
1966 矢田 和弘
1966 山田 雅孝
1966 中野 昭則
1966 三明 勉
1966 関 五郎
1967 赤尾 建蔵
1967 赤尾 令子
1967 奥山 俊次
1967 佐藤 亨
1967 真尾 博
1967 上野 光三
1967 横井 信明
1968 伊藤 真人
1968 内山 一郎
1968 平野 剛
1968 丸山 洋征
1968 西村 倫彦
1968 阿部 信夫
1968 伊庭 孝
1968 具志堅光男
1968 高巣 光男
1969 森田 博
1969 浅川 郁夫
1969 松本 一男
1969 小泉 国安
1969 斉藤 健次
1969 坂口 周平
1969 初田 亨
1969 本沢 宗夫
1969 前田 清行
1969 木村 雅俊
1970 岩瀬 栄子
1970 加藤 昭仁
1970 飯田 隆三
1970 小名木朝光
1970 菅野 一二
1970 佐藤 久男
1970 渡部 哲次
1971 岩田 俊二
1971 沖崎 剛
1971 川崎 正三
1971 下條真佐雄
1971 内藤 幹雄
1971 横尾 格美
1971 吉田 一男
1971 登口 昭治
1971 鈴木 公章
1972 玉那覇仁秀
1972 田中 幸二
1972 中島 範義
1972 今井登志雄
1972 大森隆之助
1972 鈴木 達志
1972 梶 徳治
1972 西野 元晴
1972 濱田 昭夫
1972 大木 幸夫
1973 阿部 信義
1973 上田 卓司
1973 岡村 洋一
1973 中川 博正
1973 山崎 忠幸
1973 吉田 登
1973 島田 敏幸
1973 上原 一男
1973 増山 英樹
1974 廉沢 映治
1974 楠 昭
1974 河野 工
1974 古賀 誠
1974 篠原 良
1974 田邊 壹
1974 宮田 栄
1974 平田 洋一
1974 小久保佳昭
1974 大島 英雄
1974 野口 昭和
1975 江藤 保博
1975 小内 實
1975 菅野 茂
1975 髙瀬 栄介
1975 依田 一
1976 井上 保夫
1976 五月女元良
1976 中西 優子
1976 山越 衛
1976 吉田 進
1976 中嶋 紀行
1977 霜田 隆
1977 秋場 幸雄
1978 飯島 重人
1978 伊藤 敏
1978 髙野 松寛
1978 森 正夫
1979 内野 正之
1979 梅津 久義
1979 木村 雄一
1979 関谷 真一
1979 鳥山 富幸
1979 花岡 栄治
1980 石川 啓司
1980 石賀 将己
1980 小栗 由裕
1980 知花 毅
1981 澤崎 宏
1981 山根 秀明
1982 伊藤 勉
1982 岡村 清
1982 鈴木 敏彦
1983 大谷 孝志
1983 種市 俊也
1984 川上 一盛
1986 不破 達生
1986 吉崎 清則
1987 金子 純
1987 下田平 滋
1988 佐々木善郎
1989 聞間 至
1991 香川 浩
1991 新海 俊一
1992 大塚 洋一
1994 西川 豊宏
1997 古谷 亨
1999 佐藤 弘規
1999 井上 芽理
2001 丸山 直之
2001 仙波 弦
2003 篠崎 康治
2003 深澤 圭祐
2005 卯月 淳
2006 勝村 久
2006 梨子田 勉
2006 庄司 豊
2009 山岸 梨香
2012 仲野 祥平
2012 松山 美樹
2013 樋口 彰文
2014 清水 大地
2016 島田 泰仁
2016 栗原 博
匿名 30件

【附属高校同窓会】

1949 土田 昭一
1953 菅原 章之
1953 中野 喬行
1955 瀧島平八郎
1955 松浦 光輝
1957 石渡 秀夫
1957 米沢善治郎
1958 高橋 弘
1960 鈴木 肇
1960 高木 賢治
1961 栢森 茂昌
1961 三宅 捷夫
1961 渡邊 邦雄
1963 市川 周平
1963 谷澤 護
1963 小林 保男
1963 篠 欣克
1963 滝島 正之
1963 鄭 雄飛
1963 村上 好孝
1963 黒米 富雄
1964 倉内 重耐
1966 有岡 光男
1967 星野 明
1967 岡元 由雄
1969 君塚 貞夫
1972 太田 正利
1974 内野 正之
1974 岡安 彰
1974 角田 幸三
1974 河村 重次
1975 梅田 俊幸
1976 小口 俊明
1978 木村 元一
1979 堀田 猛
1985 伊東 繁孝
1991 関谷 茂
1994 熊川 輝之
2015 有田 咲
2015 岩峰 康大
匿名 6件

【専門学校同窓会】

1952 佐藤 松二
1953 橋爪 積
1954 中西 凌嶽
1955 西原 康二
1956 小嶋 正夫
1957 加藤 和夫
1958 梶野 和己
1959 石川 裕倉
1960 関口 守正
1960 佐藤 益功
1960 三須 喜義
1961 石渡 守
1961 佐久間惣喜
1961 遠藤 佳和
1962 鈴木 勝三
1962 皆川 誠吉
1962 佐藤 正美
1962 佐藤 敏勝
1962 竹内 幸雄
1963 豊岡 昭男
1963 千葉 清
1964 石野 赫
1964 井筒 威夫
1964 大野 英誠
1965 水車 正
1966 若杉 吉明
1966 赤木 啓利
1966 石渡 宏侑
1966 小林 保弘
1966 畠山 忠弘
1966 岩田 一美
1966 佐々木 健
1966 東 恒男
1967 田中 良夫
1967 平賀東洋一
1967 室井 昇
1967 北條 忠二
1968 相澤 良夫
1968 酒井 史生
1968 山川 義則
1968 渡辺 征三
1968 伊藤 英雄
1968 須藤 正夫
1968 山崎 洋二
1968 尾形 聖護
1968 加藤美恵子
1969 腰越 孝夫
1969 川上 繁信
1970 大友 幸伸
1970 高橋 武嗣
1970 鈴木 欣吾
1971 篠崎 秀夫
1971 浦上 信男
1971 井上 忠孝
1972 加藤 豊
1972 古山 正文
1973 鎌田 健一
1974 近藤 松男
1974 狐塚 進一
1974 御旅屋 豊
1974 三輪 和夫
1976 藤田 純一
1977 島森 清
1981 関 裕児
1981 上田 和幸
1983 飯田 克磨
1984 矢島 英成
1985 櫻井 良尚
1985 広瀬 竜也
1986 武田 信夫
1987 近藤 剛
1991 下村 賢司
1992 室井 均
1993 関田 弘美
1993 田口 勝一
1994 伊藤弘一郎
1995 葉山 恭徳
1995 遠藤 正憲
1996 戸石 洋平
1997 齋藤 研吾
2003 天野 義宏
匿名 14件

【団体】

波多江先生を偲ぶ会
樹輪の会
鷹野設計㈱
タマキハウジング㈱
匿名5件

皆様から納入いただいた維持協力会費の50%は皆様の所属支部へ支部活動交付金として（総額200万円を限度額）残りの50%は校友会の事業活動費として、運用させていただいております。
今後も本学の名誉となる研究活動、世界レベル・全日本レベルでの大会での学生活動に対して支援して行きたいと考えています。
皆様方のさらなるご協力を頂きたくお願い申し上げます。

＋サポート

疾病補償特約付帯普通傷害保険

あなたの安心ふやしませんか

《20歳男性・A級職※の方の場合》

月額 **990**円で

※A級職：技術者（技師・監督を含む）、事務従事者、金属製造加工作業者、修理作業者、電気作業者、サービス職業従事者 など

入院保険金（日額）5,000円 → 180日（6ヵ月）

1事故 最大 90万円

入院日額5,000円×補償期間180日（6ヶ月）＝90万円

1. 病気・ケガ・がんを問わず入院したその日から補償。
   → 日帰り入院から補償いたします。
2. 最長で180日間補償。（疾病入院は通算1,000日限度）
   → 1入院180日間まで継続補償いたしますので、長期入院の場合も安心です。
3. 手術の種類に応じて手術保険金をお支払い。
   → 手術を受けられた場合、ケガによるものは手術内容に応じて入院保険金日額の5・10倍、病気によるものは手術の種類に応じて入院保険金日額の10・20・40倍をお支払いします。
4. 医師の診査が不要。
   → 契約にあたっては、医師の診査が不要のため非常に簡単です。
5. 保険料がリーズナブル。
   → 20歳男性の方なら月額990円でご加入いただけます。（A級職※の場合）
6. 69歳まで加入できます。
   → 75歳まで自動継続となります。

■お問い合わせ（取扱代理店）

AIS エーアイエス

東京オフィス
〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-10（東洋ビルディング4階）
TEL.03-5542-1078　0120-116-513

■引受保険会社

Chubb損害保険株式会社
本社
〒141-8679
東京都品川区北品川6-7-29 ガーデンシティ品川御殿山

L1710245

丸大食品

≪丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。≫

お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝等、いつでもご利用になれます。

丸大食品株式会社　東日本特販営業課

〒135-0051　東京都江東区枝川2-23-2

TEL03(3647)3270　FAX03(3647)3274

くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。

京王プラザホテル

〒160-8330　東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL.(03)3344-0111
http://www.keioplaza.co.jp/

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

安全、安心、快適を提供し
社会に貢献いたします。

三和グループ　三和シヤッター工業株式会社　03-3346-3011

これまでも、そしてこれからも
工学院の皆さんのキャンパスライフをサポートします

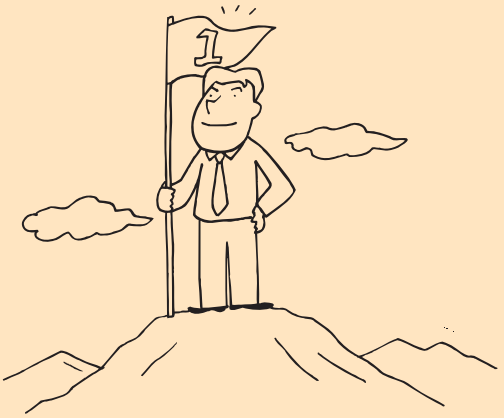
八王子購買書籍部

八王子食堂部

工学院大学学園生活協同組合
本部／TEL 042-633-9012　FAX 042-624-5387
E-mail:kogakuin.h@fc.univcoop.or.jp　URL:http://www.univcoop.jp/kogakuin

お客様にとって
いちばんの印刷会社になろう。

NPC日本印刷の仕事は、
お客様のお役に立つこと。
「やっぱりNPCでなくちゃ」といわれる
会社をめざして、がんばっています。



NPC 日本印刷株式会社

〒170-0013
東京都豊島区東池袋4-41-24　東池袋センタービル
電話03（5911）8660（代）　http://www.npc-tyo.co.jp/

身近なシーンから都市のインフラまで
火災から大切な命と財産を守る、能美防災

能美防災は、自動火災報知設備と消火設備のトップメーカーです。

NOHMI 能美防災

代表取締役会長　橋爪　毅（本学生産機械工学科 1967 年卒）

本　　社：〒102-8277 東京都千代田区九段南4丁目7番3号
西関東支社：〒192-0082 東京都八王子市東町2番12号

選ばれて、5万家族。

お陰様で、長期固定金利住宅ローン【フラット35】の
融資件数が、平成28年度は11,141件
累計50,681件となりました。
これまでご利用頂きました約5万家族の皆様方
ありがとうございました。

株式会社 優良住宅ローン

本社所在地:東京都新宿区一丁目3番12号 壱丁目参番館5階　電話:03-6457-7451(代表)

優良住宅ローン　検索

●会社概要

社名	株式会社 優良住宅ローン
代表者名	代表取締役　田野邉 幸裕 (建築学科 昭和44年卒業)
許可等	貸金業 関東財務局長(4)第01443号 日本貸金業協会会員番号:第003153号
設立	平成17年2月25日
資本金	6億円

●拠点

本社	東京都新宿区新宿1-3-12 壱丁目参番館5階
札幌支店	札幌市中央区大通西12-4 あいおいニッセイ同和損保札幌大通ビル8階
仙台支店	仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル7階
さいたま支店	平成29年度出店予定
名古屋支店	名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル1階
神戸支店	神戸市中央区京町79 日本ビルヂング9階
広島支店	広島市中区大手町3-2-31 損保ジャパン日本興亜広島大手町ビル8階
高知店	高知市杉井流16-27 フレンドフォーC
福岡支店	福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル4階
福岡天神南店	福岡市中央区清川3-1-12 第3いわきビル1階
鹿児島店	鹿児島市鴨池2-1-1 アーバンスクェアー東邦3階
熊本店	熊本市中央区八王寺町30-1 メインプレイス熊本南5-D

【フラット35】とは、独立行政法人住宅金融支援機構と民間金融機関が提携して皆様に提供している長期固定金利住宅ローンです。

広報部からのお知らせ

広告募集

あなたの会社や製品を紹介しませんか？

本誌は、日本全国で活躍している工学院大学の卒業生を中心に、約67,000人に配布しています。貴社の活動や製品・サービスを67,000人に紹介してみませんか。

〔募 集 対 象〕企業、組織、団体などの広告宣伝など
〔掲　載　紙〕工学院大学校友会報 Vol.138
〔発行予定日〕2018年4月25日
〔発 行 部 数〕約67,000部
〔主な配布先〕工学院大学、同附属高等学校・中学校の卒業生、専門学校の卒業生、卒業生のご父母、現任教員、学園関係者、監督官庁
〔掲 載 料 金〕第2表紙、第3表紙24万円／頁、本文内18万円／頁、9万円／半頁（全頁カラー）
〔募集締切り〕2018年1月15日
〔出 稿 原 稿〕EPS、PDFなど。詳細は工学院大学校友会事務局に。

記事募集

近況を校友会報やホームページで紹介しませんか？

広報部では、校友のみなさまの活動を本誌やホームページを使ってお手伝いします。支部、同窓会、同期会主催のイベント案内や参加者募集、楽しかった活動の報告など、気軽にお知らせ下さい。

また、校友のみなさまがご執筆された書籍の紹介もいたしますので、工学院大学校友会事務局にご連絡ください。

〔お問合せ・原稿送付先〕
工学院大学校友会事務局まで（巻末に記載）

編集後記

今年度も、無事皆様に校友会報をお届けすることができました。早いもので、広報部が現メンバーで校友会報の編集、校友会ホームページの更新を担当するようになって2年が経とうとしています。この5月には、代議員、理事会役員の改選にともない、広報部も新体制に移行しますが、次年度以降も引き続き、「読み物として魅力的な校友会報」「最新の情報を提供するホームページ」という役割分担を意識しながら、会報の編集を継続いたします。

さて、前号では各同窓会の特集ページを設け、在学生、卒業生（校友）の活躍ぶりをご紹介しましたが、今号では校友会を構成する下部組織である6つの同窓会の会長にお集まりいただき、校友会の未来像について語り合う座談会の特集ページをお届けします。座談会の中では、各同窓会独自の活動、運営の財源確保に関する工夫等についてご紹介いただくとともに、校友会の継続と、さらなる発展のために、各同窓会がどの様に交流・連携を進めていったら良いか、ざっくばらんに意見交換をしていただきました。本誌の特集記事を通じて、多くの校友の皆様に各同窓会の現状をご理解いただき、校友会の明日についてお考えいただければ幸いです。

最後に、本誌の発行に多大なるご支援・ご協力をいただきました学園理事長、大学長、附属中学校・高等学校長、座談会にご出席いただいた各同窓会長、原稿をご執筆いただいた会員各位、ならびに広告をご出稿いただいた企業各社に、この場を借りてお礼を申し上げます。

TOKYO URBAN TECH 工学院大学 校友会報 Vol.138

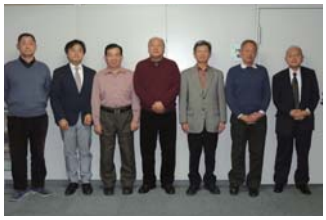
発行日　2017年4月20日
発　行　一般社団法人　工学院大学校友会
住　所　〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
電　話　03-3342-2064　03-3340-1649
ＦＡＸ　03-3342-2035
メール　jimukyoku@kogakuin.or.jp

編　集　工学院大学校友会　広報部
〔部　長〕澤崎　宏（建築）
〔副部長〕新海俊一（建築）
〔部　員〕坂口教子（機械）、浅利信博（化学）、名取勝敏（電気）、佐藤弘規（建築）、田中元樹（高校）、駒崎健一（専門）、井上博明（専門）
印刷・製本・デザイン　日本印刷株式会社

工学院大学校友会 校友会報のホームページはこちらから　http://www.kogakuin-koyukai.jp/

工学院大学
KOGAKUIN UNIVERSITY

工学院大学校友会 検索

最新情報・イベント情報は
こちらでチェック！

携帯スマホはこちらからアクセス！